いながわ☆未来創造交流会
【結果報告】

平成 26 年 1 月

猪名川町

目　次

１．いながわ☆未来創造交流会の目的と全体テーマ 1

２．いながわ☆未来創造交流会のプログラム 3

３．講演要旨 4

４．グループテーマの設定 9

５．意見のまとめ 10

交流会模造紙まとめ 29

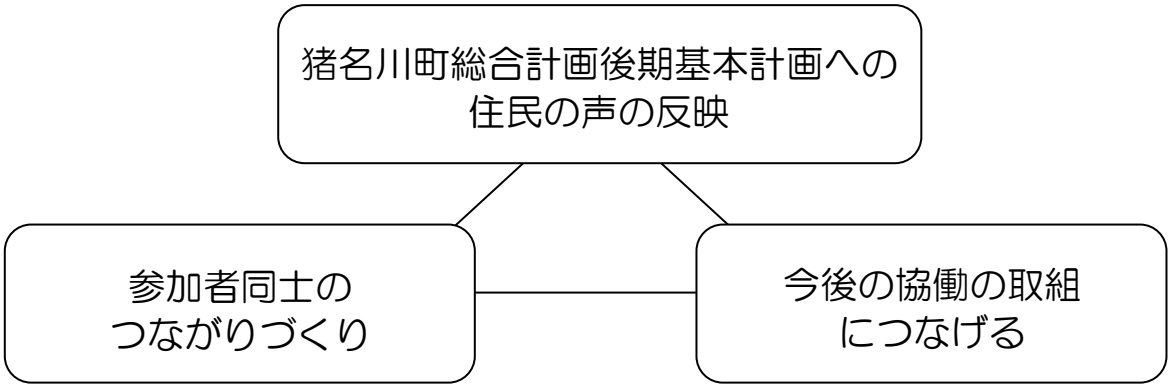
参考資料　交流会終了時アンケート集計結果 39

１．いながわ☆未来創造交流会の目的と全体テーマ

（１）いながわ☆未来創造交流会の目的

いながわ☆未来創造交流会は、第五次猪名川町総合計画後期基本計画に住民の皆さんの声を反映することや、参加者同士の交流、協働の取組のきっかけづくりを目的として実施しました。なお、いながわ☆未来創造交流会の企画にあたっては、住民との協働を図り、住民視点での検討がスムーズに行えるよう、住民有志による仕掛けづくり会を設置し、検討を行いました。

【３つの目的】

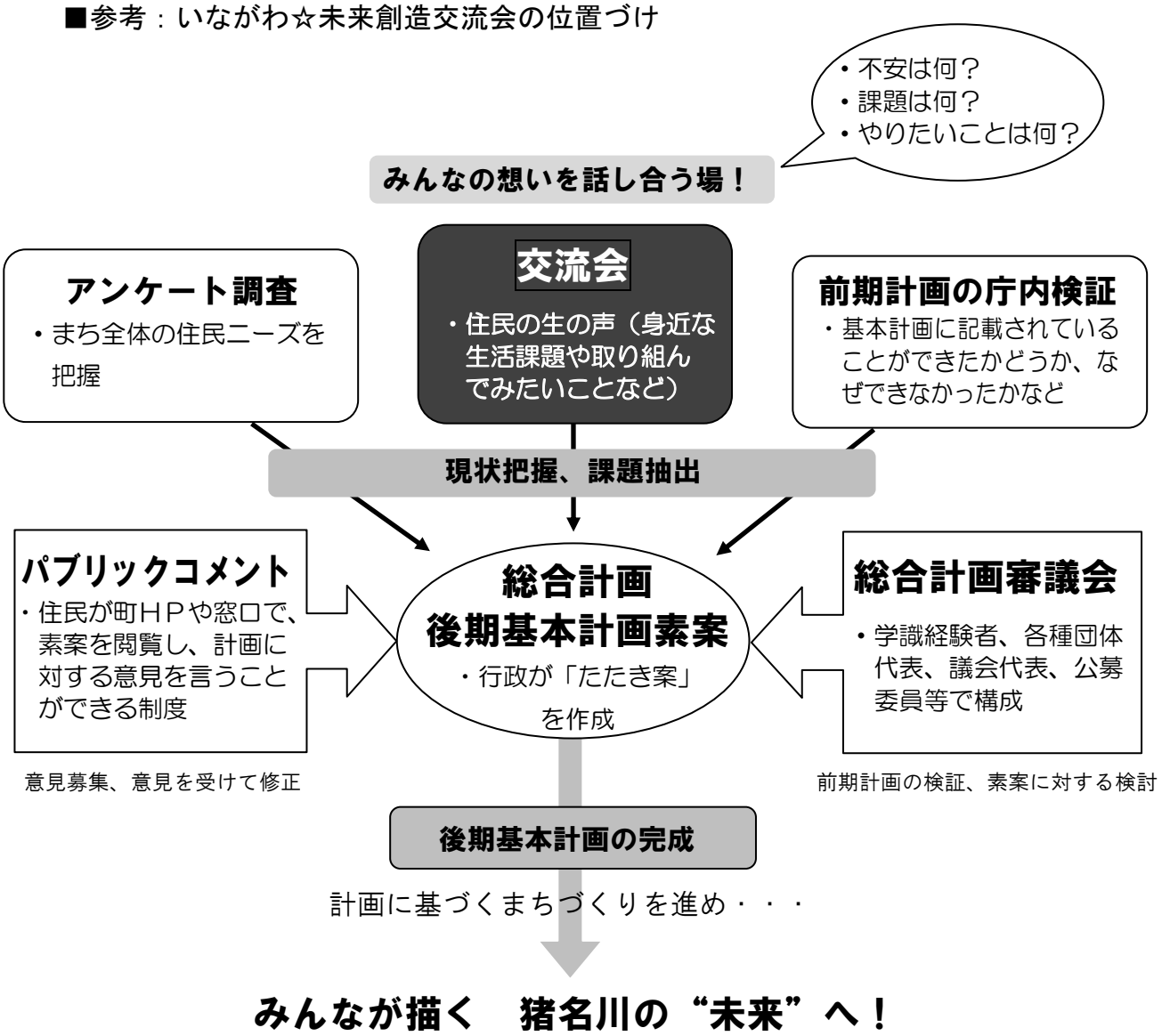


（２）いながわ☆未来創造交流会の全体テーマ

住民の視点で、今後目指すべきまちの将来像と、その実現のためのアイデアを検討していくため、いながわ☆未来創造交流会の全体テーマを以下の通り設定しました。

「　みんなでさがそう！　猪名川の未来～あした～　」

■参考：いながわ☆未来創造交流会の位置づけ



計画に基づくまちづくりを進め・・・

みんなが描く　猪名川の“未来”へ！

２．いながわ☆未来創造交流会のプログラム

全４回に渡る交流会を通じて、参加者同士の交流を深めるとともに、議論を積み重ねました。

	開催日時	会　場	内　容	参加人数
第1回	10月5日（土） 10：00～12：00	中央公民館 視聴覚ホール 会議室２	**【第1部】講 演** 近畿大学教授　久 隆浩氏 「暮らしづくりとまちづくり」 **【第2部】交流会** あなたが気になっていることはなんですか？	57名
第2回	11月10日（日） 13：00～15：00	中央公民館 視聴覚ホール	**「猪名川町のいまを見つめよう」** ・猪名川町の魅力と課題について	39名
第3回	11月17日（日） 13：00～15：00	中央公民館 視聴覚ホール	**「猪名川町の未来～あした～を描こう」** ・魅力の活用、課題解決をしながら目指すべきまちの将来像について	38名
第4回	11月24日（日） 13：00～15：00	中央公民館 視聴覚ホール	**「猪名川町の未来～あした～を実現する方策を考えよう」** ・まちの将来像を実現するための方策について	38名

３．講演要旨

これからのまちづくりを進める上での考え方やポイントを共有するため、近畿大学久隆浩教授をお招きし、「暮らしづくりとまちづくり」をテーマに講演を行っていただきました。

（１）いながわ☆未来創造交流会について

・未来を予想することは難しい。
・５年後、10 年後どうなるかはわからないが、５年後 10 年後どうしたいかは想像できる。
・未来はやってくるものではなく、どうありたいかを考えて努力していくことで実現していくもの。
・一人ひとりが、どういう未来を描いているか確認しないまま進むと、どこにたどり着くかわからないため、交流しながらやっていくのがよい。それが、未来創造交流会の場でできればよい。
・世の中は勝手に動いているわけではなく、ムーブメントがあるので、感性を磨くことが大切。
・一人ひとりが、「どうありたいか」というところからスタートするのが確実に未来に近づく方法。

（２）まちづくりとは

・簡単な定義として、暮らしをよりよくするための活動の総体。
・今よりも明日、少しでも良くなることがまちづくり。福祉、防犯、教育・・・。いろいろな分野の様々な活動の結果として暮らしをよくする全ての活動がまちづくり。
・直訳するとタウンプランニングとなるが、コミュニティプランニング、コミュニティデザインとする方がイメージしやすい。
・例えば、公園を作っても暮らしがよくならなければ意味がない。
・行って心が和むことや、コミュニケーションの場になるのであれば、居酒屋、音楽ホールなども、公園的な場所になる。
・固定観念にとらわれるのではなく、時間、場所を捉え直すことも必要。
（「公園がほしい」→「公園的場所がほしい」のように、別の方法を検討することも必要）

（３）暮らしを見つめなおす

・まちづくりをするときには、自分の暮らしを見つめなおすことが重要。
・「公園がほしい」「図書館がほしい」という背景には、実現したい暮らしの姿がある。
・「図書館がほしい」背景は、身近で、たくさんの本が読みたいという実現手段が、図書館。本の電子化などにより、10 年後の図書館のあり方を想像しなければならない。
・ニーズの背景には暮らしの姿がある。

① 私はこんな暮らしをしたい	→	それを実現するために必要なモノ・コト
② それがあるとどんな暮らしが実現できるか	←	こんなモノ・コトが欲しい
＜目標・目的＞		＜方策・手段＞

・「〇〇がほしい」になってしまうことが多いが、どんな暮らしが実現したいかを考えるのが本来のあり方。
・目標、目的が何か、それを実現する方策は何か整理していけばわかりやすくなる。

ライフスタイル（生活様式）をあきらかにする
ライフステージ（世代）／　一生の暮らし方を考える
ライフシーン（生活風景）：働く、学ぶ、憩う、遊ぶ、交わる…／一日・一年の暮らし方を考える

・世代によっても、人生の長い段階で、ニーズが違ってくるため、ライフステージに併せて考えてみる。
・同じ年代としてもライフシーン、生活のそれぞれの場面で違う。
・それぞれが一つになって、生活が成り立っている。
・伊勢市都市計画マスタープランでは、まちづくり人生ゲームとして、生まれてから死ぬまでをゲーム形式で検討した。例えば、死んだときの墓はどうするのかなど。

（４）生活マスタープランづくり

・一人一人の暮らしを考え、調整していく。
・生活マスタープランづくりは、10 年後、20 年後の暮らしの姿を考えていくこと。
・それに対して、まちづくりのマスタープランが総合計画となる。
・住宅づくりを例にしても、注文住宅をつくるとき、設計者は、家族の状況を聴き、家族団らんを大切にする家庭には、リビングをしっかりつくる。個人の生活を大切な家庭には、個室を重視する。それぞれの家族のライフスタイルによって違う。
・まちの皆さんの想いを聞いて、計画を作っていく。データ分析も必要だが、見えな

い部分は、一人一人の思いを聴かせていただいて、組みあげていくことが重要。

茨木市都市計画マスタープラン
⇒まちづくりビジョン（市民）／　都市づくりプラン（行政）
尼崎市総合計画：　ありたいまち
(1) 人が育ち、互いに支えあうまち
(2) 健康、安全・安心を実感できるまち
(3) 地域の資源を活かし、活力が生まれるまち
(4) 次の世代に、よりよい明日をつないでいくまち

・尼崎市の「ありたいまち」は、市民の皆さんの言葉を受けながら作ったが、議会からは、「あるべき姿」を行政が責任を持って作っていくべきではとの意見があった。10 年後こんなまちだったらいいなという希望を描き、それに対して、行政がどうするかを検討したもの。
・「伊丹市でも、猪名川町でも一緒では」「地域らしさがない」という意見があるが、無理して地域らしさを描く必要があるか。市民、住民は伊丹市、尼崎市で違う暮らし方しているか。地域にこだわらない暮らしをするのであればＯＫ。
・猪名川町でなければならない暮らし方をしているのであれば別。
・猪名川町ならではの暮らし、⇒暮らし続ける＝定住にもつながる。
・地域ごとに持っている資源が違っているため、一緒に考えていきたい。

（５）時代の転換期

・いろいろなことを深く見ていくと、明治維新に匹敵するくらいの時代の転換期となっている。日本だけでなく世界中で。
・大河ドラマ「八重の桜」でも、今までの考え方と、新しい考え方がぶつかって、明治がどういう風に出来上がっていく様子が描かれている。
・田原総一朗『40 歳以上はもういらない』では、20 代、30 代は考え方が全く違うことが示されている。
・古市憲寿『絶望の国の幸福な若者たち』では、将来どうなるかわからない中で、75%以上の若者は現在の暮らしに満足しているとしている。
・20 代、30 代は成長を前提としない。現状維持が基本。下がらないように頑張る。現実的。
・人口は着実に減る。30 年後には 8,000 万人位で、消費も減る。
・高度経済成長を支えてきた世代は、成長しないと不安でたまらない。
・20 代、30 代はバブルがはじけてからの世代。景気のいい時は経験していないため、今の生活が落ちるのは大変だが、現状を維持し、大きな夢は描かない。大きな改革

も目指さないが、身近な幸せや、自分ができる範囲で社会を変えることを目指す。
・地域の中で困っていることに対して、自分ができる範囲でやっていき、それがムーブメントにつながっていく。
・伊藤洋志『ナリワイをつくる　人生を盗まれない働き方』では、お金を稼ぐのではなく、そこそこの生活をするために、小さな仕事を積み重ねていくことが書かれている。
・こうしたことは、20 代、30 代の特徴だが、これが未来志向ではないか。

（６）近代からポスト近代へ

・近代という時代からポスト近代に変わっていくのでは。
・中世は絶対権力者が世の中を動かしていた。
・近代は、それが弱まり、市民が動かしていた。
・トマス・ホッブス『リヴァイアサン』では、人間は身勝手な存在で、市民が世の中を作るなんてできないとしており、一人ひとりがつくるのは難しいため、主権者（国家）に権利を預けて、調整してくれる仕組みを唱えた。
・アダムスミスは、国富論で市場が調整してくれる仕組みを唱えた。
・この二つの考え方が今の原点となっている。自動的に調整してくれる仕組み。
・生活世界の植民地化（J. ハーバーマス）は、私たちが作ったシステムが、生活の自由を奪っているとしている。
・バブルがはじけて 20 年以上、世界中が不況を脱却できない。専門家、政治家もどうしようもない。私たちががんばってもよくできない社会となっているのでは。
・自分たちの手でよい地域ができるのか。経済、国家（行政）の仕組みではない、３つ目のしくみとしてボランタリーという考え方がもう一つの社会になる。

（７）ネットワーク社会へ

・情報社会とは何か、ネットワーク社会にふさわしい仕組みが何なのか。
・A. トフラー　『第 3 の波』では、端的に整理している。
第１の波：農業革命（生産＝消費）
第２の波：産業革命（生産／消費）
第３の波：情報革命（生産＝消費）
・農業は自給自足が原則。生産と消費が合体していた。
・工業化が起こると生産と消費が分かれ、お金（経済）が発達。
・第３の波として、違う人たちがでてきた。プロシューマー。例えば市民農園をやっている方は、一部自分の食糧を自分でつくっている。ホームセンターで買って、自分でものを作る人が増えている。インターネットを通じて、ビジネスをしている主婦もいる。いろいろな形で生産に携わっている人が増えている。

・ヨハイ・ベンクラー『協力がつくる社会―ペンギンとリヴァイアサン』では、リナックスという無料の OS は、世界中の専門家が協力しながら開発している。ウィキペディアも一緒で、自分のページも作れる。専門家がやるのではなく、みんながちょっとずつ力を発揮しながら、世の中を動かしていく。
・インターネットは単なる道具で、自分の責任で使ってもらうしかない。コントロールすることがネットワーク社会では難しい。
・協働とは、ネットワーク型の活動のこと。
・行政だけでやってしまうのではない。財政難だからやってもらうのではなく、世の中がネットワーク型になっているからやるべきもの。
・協働を進めるためには、行政の役割、あり方も変えないといけない。ローカルガバメントからローカルガバナンスへ。
・ガバメントは上から抑えてコントロールすること、ガバナンスはみんなで協力しながら動かしていくことであるが、行政は、ガバナンスをやった経験がない。

（８）まとめ

・50 年先を見越したときに、いままでなかった仕組みを作っていくことが必要。
・町議会があるが、ローカルな問題はみんなで集まって決めていく。小学校区程度が最適。猪名川町でも、まちづくり協議会が動き始めている。
・答えは出しにくいかもしれないが、地域の問題を、どうやって動かしていければいいか。未来創造交流会で話し合っていければ。
・自分の５年、10 年後を描くところからスタートし、そこからみんなで議論していければと思う。
・ぶつかりあうことが必要で、「自分が正しい」ではなく、私はこう思って暮らしてきたが、違う考え方があることを知ることで、折り合っていけるような進め方をしていければと思う。

４．グループテーマの設定

第１回交流会において、「あなたが気になっていることはなんですか？」をテーマに、意見をいただきました。

分　野	件数	
生活環境（生活基盤・公共交通等）に関すること	32 件	○空き家が増えている ○交通が不便　など
子ども・子育てに関すること	24 件	○子どもが少なくなってきているのが気になる ○安心して産み育てられる環境がほしい　など
地域コミュニティに関すること	22 件	○隣近所の付き合いが希薄化している ○地域ボランティアの活動について考えたいなど
高齢者に関すること	22 件	○一人暮らし高齢者が多い ○認知症対策が必要　など
農業・商業・観光に関すること	18 件	○猪名川町の農業について考えたい ○地域資源の有効活用が必要　など
教育に関すること	10 件	○猪名川町の特色ある教育が必要 ○小中学校のメンバーが変わらないことが気になる　など
雇用・若者に関すること	9 件	○若い人の仕事場、活動の場が必要 ○若い人の意識が気になる　など
まちづくりに関すること	7 件	○住民の経験を活かしたまちづくりが必要 ○にぎわいがあるのは一部のみとなっているなど
自然環境に関すること	6 件	○猪名川町の自然を有効に活用したい ○自然環境が悪化しつつある　など
その他に関すること	17 件	○医療機関の充実が必要 ○障がいのある人の親亡きあとが心配　など

上記の意見を踏まえ、猪名川町のまちづくり全般について検討していただけるよう、グループテーマを以下の通り設定しました。

テーマ１　活力とにぎわいのあるまち
テーマ２　子どもたちの笑顔があふれるまち
テーマ３　だれもがいきいきと暮らせるまち
テーマ４　安心とふれあいのまち

５．意見のまとめ

第２回以降の交流会では、設定したテーマごとにグループによる検討を行いました。

１班　活力とにぎわいのあるまち①
２班　子どもたちの笑顔があふれるまち
３班　だれもがいきいきと暮らせるまち
４班　安心とふれあいのまち
５班　活力とにぎわいのあるまち②

●第２回　猪名川町のいまを見つめよう

第２回の交流会では、「猪名川町のいまを見つめよう」をテーマに、まちの魅力と課題について話し合いました。

●第３回　猪名川町の未来～あした～を描こう

第３回の交流会では、「猪名川町の未来～あした～を描こう」をテーマに、まちの将来像について話し合いました。

●第４回　猪名川町の未来～あした～を実現する方策を考えよう

第４回の交流会では、「猪名川町の未来～あした～を実現する方策を考えよう」をテーマに、第３回で描いたまちの将来像を実現するためのアイデアについて話し合いました。

第２回～第４回交流会の概要

【１班　活力とにぎわいのあるまち①】

第２回	**猪名川町のいまを見つめよう**
	猪名川町の自然や文化、都市部への交通アクセスの良さ、人そのものに魅力を感じている一方で、道路の整備状況やまちの情報発信力の弱さ、高齢化の問題などが課題として挙げられました。
第３回	**猪名川町の未来～あした～を描こう**
	猪名川町の魅力である自然や文化などの地域資源を活かした観光振興、ブランドの確立を進めるとともに、働く場所を確保し、人口と観光客の増加を図る「安心・安全・にぎわいのあるまち」という未来を描きました。
第４回	**猪名川町の未来～あした～を実現する方策を考えよう**
	「安全・安心にぎわいのある町」を目指し、猪名川ブランドの充実を図るための規制の見直しやハイキング等まち歩きの充実、里山の再生など、住民と行政の協力のもと地域資源を活かした取組や外部への情報発信、ＰＲの強化が提案されました。

【２班　子どもたちの笑顔があふれるまち】

第２回	**猪名川町のいまを見つめよう**
	自然が多い環境の中で子育てができることや人のあたたかさなどに魅力を感じている一方で、恵まれた自然が十分に活用できていない現状や子どもの居場所が少ないこと、世代間のつながりが薄れていることなどが課題として挙げられました。
第３回	**猪名川町の未来～あした～を描こう**
	子育て中の親や子ども、高齢者の居場所づくりや地域交流、世代交流の実現、子育てやイベント等に関する情報共有など、人材と地域資源を活かした「成人しても帰ってきたいと思えるまち」という未来を描きました。
第４回	**猪名川町の未来～あした～を実現する方策を考えよう**
	「帰りたい町」を目指し、自然環境などの地域資源を活かした子どもが行きたい場所づくりや住民のだれもが先生役になれるような町のリーダーづくりなど、つながりづくりによる人が孤立しないための取組が提案されました。

【３班　だれもがいきいきと暮らせるまち】

第２回	**猪名川町のいまを見つめよう**
	恵まれた自然環境やゆとりのある住宅環境、人とのつながりに魅力を感じている一方で、医療体制に対する不安や北部と南部の交流が少ないこと、交通の不便さ、少子高齢化問題などが課題として挙げられました。
第３回	**猪名川町の未来～あした～を描こう**
	自治会活動などの活性化による人とのつながりの強化や交通手段の確保、安心の医療体制など、高齢者や障がいのある人など多様な人が受け入れられる「だれもがいきいきと暮らせるまち」という未来を描きました。
第４回	**猪名川町の未来～あした～を実現する方策を考えよう**
	「だれもがいきいきと暮らせるまち」を目指し、認知症など弱者の見守り体制の充実や医療に関する相談窓口、ネットワークの充実、安心の医療体制の確立などと併せ、健康づくりや働ける場所、人の集まる場づくりなどの取組が提案されました。

【４班　安心とふれあいのまち】

第２回	**猪名川町のいまを見つめよう**
	自然に恵まれながら、生活上の利便性があることや安心して子育てのできる環境、人の良さに魅力を感じている一方で、住民の自発的協力意識の薄さや北部と南部の地域格差、若者の流出などが課題として挙げられました。
第３回	**猪名川町の未来～あした～を描こう**
	恵まれた自然環境を活かし、働く場所や医療体制などの生活環境が整備され、人とのつながりのある安心できるコミュニティを築ける「みどりとえがおのあふれる町　住んでよかったナ、帰ってきたい町」という未来を描きました。
第４回	**猪名川町の未来～あした～を実現する方策を考えよう**
	「みどりとえがおのあふれる町　住んでよかったナ、帰ってきたい町」を目指し、困った時に助け合える関係づくりや世代を超えた交流の場づくり、自然への考え方を深める機会づくり、交通面の充実などの取組が提案されました。

【５班　活力とにぎわいのあるまち②】

第２回	**猪名川町のいまを見つめよう**
	豊かな自然や銀銅山などの歴史・文化、住みやすさや人のあたたかさなどに魅力を感じている一方で、働く場所の少なさや人が集える場所の不足、まちのＰＲ力の弱さなどが課題として挙げられました。
第３回	**猪名川町の未来～あした～を描こう**
	地域資源を活かしたイベントの開催、廃校や酒蔵など既存の店舗や施設の活用と活性化の促進、ボランティアやコミュニティなど人がつながる仕組みづくりで「農でにぎわう・イベントで集う・活かす・つながるまち」という未来を描きました。
第４回	**猪名川町の未来～あした～を実現する方策を考えよう**
	「日本で一番かがやく田舎」を目指し、アドベンチャータウンとして、里山の活用や自然を活かしたスポーツイベント、まちじゅうサクラＰＲとして、桜の植樹活動、農えん創造として、体験型観光農園や就農支援などの取組が提案されました。

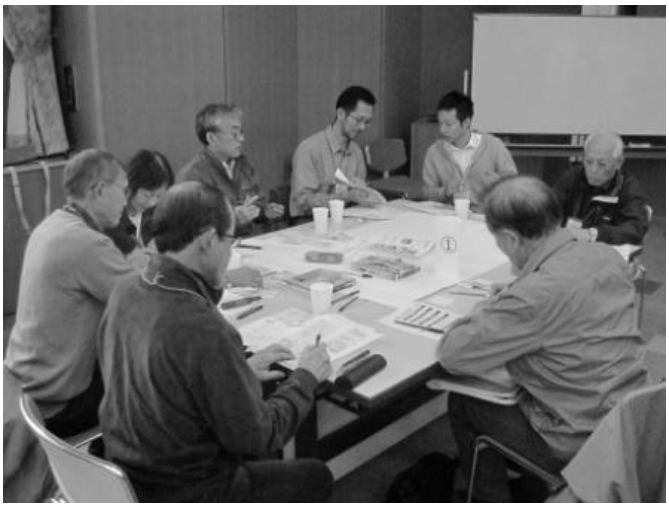
【１班　活力とにぎわいのあるまち①】

●第２回　猪名川町のいまを見つめよう

猪名川町の自然や文化、都市部への交通アクセスの良さ、人そのものに魅力を感じている一方で、道路の整備状況やまちの情報発信力の弱さ、高齢化の問題などが課題として挙げられました。

【主なご意見】

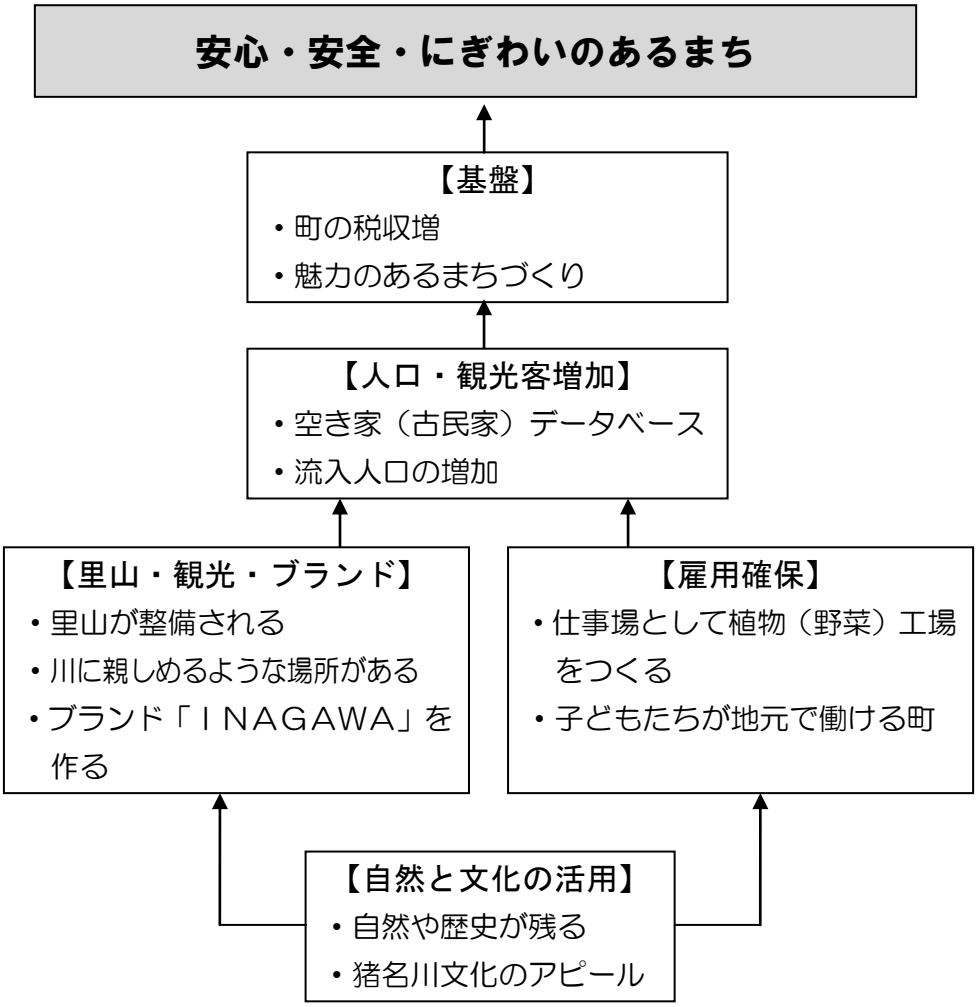
【魅力】	【課題】
・農産物がおいしい	・道路等の環境整備
・大都市への交通の便が良い	・通学路の安全確保が必要
・銀山などの歴史的文化遺産	・食事ができる場所が少ない
・里山がある	・総合病院がない
・人が優しい、ゆったりしている	・情報発信力が弱い
	・高齢化



●第３回　猪名川町の未来～あした～を描こう

猪名川町の魅力である自然や文化などの地域資源を活かした観光振興、ブランドの確立を進めるとともに、働く場所を確保し、人口と観光客の増加を図る「安心・安全・にぎわいのあるまち」という未来を描きました。

【主なご意見】



●第４回　猪名川町の未来～あした～を実現する方策を考えよう

「安全・安心にぎわいのある町」を目指し、猪名川ブランドの充実を図るための規制の見直しやハイキング等まち歩きの充実、里山の再生など、住民と行政の協力のもと地域資源を活かした取組や外部への情報発信、ＰＲの強化が提案されました。

【主なご意見】

安全・安心・にぎわいのある町

【猪名川ブランドの充実】
・町民が猪名川の特徴ある店をつくるため、行政は市街化調整区域の見直しなどの条件整備を行う

【まち歩きの充実】
・町民・能勢電・ガイドがハイキングやまち歩きの案内を行うため、行政は道路や橋の危険箇所の改善と整備を行う

【里山の再生】
・子どもが遊べる里山づくりや、森林資源を有効活用するため、山主、行政、町民の協力のもと、行政は里山整備の施策順位を向上

【２班　子どもたちの笑顔があふれるまち】

●第２回　猪名川町のいまを見つめよう

自然が多い環境の中で子育てができることや人のあたたかさなど都会では得られない魅力を感じている一方で、恵まれた自然が十分に活用できていない現状や子どもの居場所が少ないこと、サークル、コミュニティなどの意見を聞いてくれる中間地点がないこと、自治会を抜ける方がいることで、世代間のつながりが薄れていることなどが課題として挙げられました。

【主なご意見】

【魅力】	【課題】
・自然が豊か ・公園が沢山ある ・図書館など文化施設が充実している ・人のぬくもりがある	・豊かな自然を活用できていない ・児童館など放課後の子どもの居場所が少ない ・色々な世代間の交流をする機会が少ない ・行政と個人をつなぐ中間的な組織がない

●第３回　猪名川町の未来～あした～を描こう

まちづくりの担い手や行政の効果的な支援による子育て中の親や子ども、高齢者の居場所づくりや地域交流、世代交流の実現、子育てやイベント等に関する情報共有など、人材と地域資源を活かした「成人しても帰ってきたいと思えるまち」という未来を描きました。

【主なご意見】

成人しても帰ってきたいと思えるまち
生活拠点として継続していけるまち

【居場所づくり】
- 子どもと高齢者が一緒に過ごせる場所づくり
- 保育園や学童保育の充実
- 自然を活かした遊び場

【地域の交流】
- まちの人が特技を活かして「先生」となる
- 講座や体験教室の開催

【情報の共有】
- 子育て情報を共有できる場所を作る
- 地域イベントをチェックできるようにする

【行政からの支援】
- 子育て世代が地域へ協力できる仕組みを整え、担い手が育つまちづくりをする
- 新しいチャレンジの支援などに間口の広い部署をつくってほしい

●第４回　猪名川町の未来～あした～を実現する方策を考えよう

「帰りたい町」を目指し、自然環境などの地域資源を活かした子どもが行きたい場所づくりや住民のだれもが先生役になれるような町のリーダーづくりなど、つながりづくりによる人が孤立しないための取組が提案されました。

【主なご意見】

帰りたい町
子どもたちが誇りを持てる町

子どもが行きたい場所づくり	町のリーダーづくり
【子どもが心身ともに健やかに育つために】 ・２歳くらいから自然に親しむ機会を（例：土日の森の幼稚園） ・野外活動やボーイスカウト、ガールスカウトの活動をＰＲ ・気軽に集えるように ・まちカフェづくり ・放課後子どもプラン	【人がつながるために】 ・町の皆が先生になるシステム ・特技の登録システム ・登下校時のシニアの見守り ・親子がつながり学びあう場 ・子ども・青少年による「いながわミュージカル企画 ・子育てに関する情報を共有する

【人が孤立しないための取組】

【３班　だれもがいきいきと暮らせるまち】

●第２回　猪名川町のいまを見つめよう

緑の多さや空気のおいしさなど恵まれた自然環境やゆとりのある住宅環境、人とのつながりに魅力を感じている一方で、医療体制に対する不安や北部と南部の交流が少ないこと、交通の不便さ、少子高齢化問題などが課題として挙げられました。

【主なご意見】

【魅力】	【課題】
・緑が多く、田園が広がっている ・空気が良い ・都市部と比較して住宅にゆとりがある ・人のつながりがある ・子どもが気軽にあいさつしてくれる	・医療施設が充実していない ・公共交通機関が不便（休日にバスが運行されない、運賃が高い等） ・北部と南部（日生ニュータウン）との交流が少ない ・高齢化のため自治会運営が困難

●第３回　猪名川町の未来～あした～を描こう

自治会活動などの活性化による人とのつながりの強化や交通手段の確保、安心の医療体制など、高齢者や障がいのある人など多様な人が受け入れられる「だれもがいきいきと暮らせるまち」という未来を描きました。

【主なご意見】

だれもがいきいきと暮らせるまち

【多様な人が暮らせる】
- 高齢者や障がい者も働ける場所があったら良い
- 高齢者の孤立を防止する

【人のつながりがある】
- 生き活きした自治会活動
- 近所づきあいを昭和の頃に戻す

【はりあいのある生活】
- だれもが受け入れられる
- 農村地域の活性化

【住民と行政のつながり】
- 住民と行政が一体となるよう、コミュニケーションＵＰ

【安全に移動できる】
- 車を持たない人も自由に移動できる
- 歩道整備

【豊かな自然がある】
- 生き活きした自然が守られる

【安心の医療】
- 診療所や相談窓口となる施設をまとめた情報源
- 先進的医療施設の誘致

【人が集まる】
- 文化人が集えるまち
- スポーツ大会のイメージＵＰ
- 「ほたるの夕べ」の拡大

●第４回　猪名川町の未来～あした～を実現する方策を考えよう

「だれもがいきいきと暮らせるまち」を目指し、認知症など弱者の見守り体制の充実や地域にいる医療や介護のプロフェショナルを活かした助け合いの仕組みづくり、医療に関する相談窓口、ネットワークの充実、安心の医療体制のための総合病院の誘致などと併せ、健康づくりや働ける場所、人の集まる場づくりなどの取組が提案されました。

【主なご意見】

だれもがいきいきと暮らせるまち

【弱者の方の見守り】
- 認知症サポーター講習をもっと開催する
- ヘルパー資格取得費用の一部補助をしてほしい

【相談窓口】
- 広域医療情報を共有するネットワークの構築
- 病気の時に情報がわかる、書き込める掲示板

【安心の医療】
- 総合病院の誘致
- 雇用の発生
- 行政による他市の病院への出資

【いきいき暮らせるための取組】
- 休耕田を活用した野菜作り
- 健康をテーマにしたイベント
- 高齢でも、障がいがあっても働ける場所づくり
- 人の集まる場づくり

【４班　安心とふれあいのまち】

●第２回　猪名川町のいまを見つめよう

自然に恵まれながら、生活上の利便性があることや安心して子育てのできる環境、人の良さに魅力を感じている一方で、住民の自発的協力意識の薄さや北部と南部の地域格差、若者の流出などが課題として挙げられました。

【主なご意見】

【魅力】	【課題】
・人が良い ・猪名川町を好きな人が多い ・子育てがしやすい ・自然に恵まれながら、生活上の利便性はある ・図書館などが充実している	・住民の自発的な協力意識の薄さ ・北部と南部の地域格差 ・若者の流出が増えている ・一人暮らしの高齢者が増えている

●第３回　猪名川町の未来～あした～を描こう

川がきれいで星がたくさん見える恵まれた自然環境を活かし、働く場所や医療体制などの生活環境が整備され、人とのつながりのある安心できるコミュニティを築ける「みどりとえがおのあふれる町　住んでよかったナ、帰ってきたい町」という未来を描きました。

【主なご意見】

みどりとえがおのあふれる町
住んでよかったナ、帰ってきたい町

【自然環境】
- 本当に安心して暮らせる環境に
- 川がきれいで、生物が沢山いて、蛍が飛びかう
- 星がたくさん見えて空気がおいしい

【生活環境】
- 働く場所があり、活気がある
- バスの数をもう少し増やす
- 大きな病院がなくても急病にはすぐに対応できるようにする
- 地元の収穫物を地元で消費できる

【コミュニティ】
- 安心、安全なまち
- コミュニティの築ける町
- お隣さんを知っていてお互い助け合える
- あいさつなどのコミュニケーションをとる
- 違う世代間で交流できるようにする
- 自然の大切さを知る機会を作る
- 子どもが公園でたくさん遊んでいる

●第４回　猪名川町の未来～あした～を実現する方策を考えよう

「みどりとえがおのあふれる町　住んでよかったナ、帰ってきたい町」を目指し、困った時に助け合える関係・環境づくりや世代を超えた交流の場づくり、体験を通して自然への考え方を深める機会や場づくり、交通を便利にするためのバスの充実や道路の舗装などの取組が提案されました。

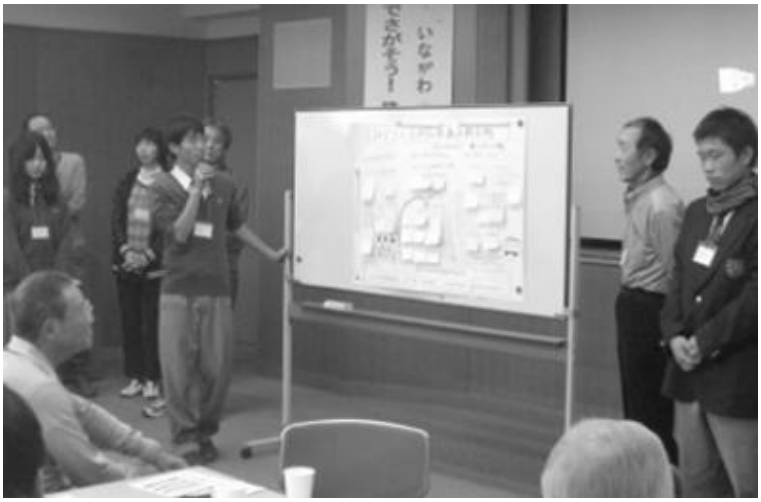
【主なご意見】

～みどりとえがおのあふれる町～
住んでよかったナ、帰ってきたい町

【個人対地域の交流】
- 困ったときにＳＯＳを出せる関係づくり
- あいさつをする習慣づくり
- 世代間、職種間の格差を埋める
- 自治会活動・まち協活動への参画機会を増やす

【自然への考え方を深める】
- 里山教室などの企画で、自然について知る機会を設ける
- 森林組合、環境団体、植木業者などから出前講座
- 環境を良くするために自分たちができることを知る

【交通を便利にする】
- 大学生が猪名川町から通えるようにする
- 利用しやすいバスの便にする
- 住民もできるだけバスを利用する
- 自転車も安心できるようカーブミラーや道路の舗装を行う



【５班　活力とにぎわいのあるまち②】

●第２回　猪名川町のいまを見つめよう

豊かな自然や銀銅山などの歴史・文化、住みやすさや人のあたたかさなどに魅力を感じている一方で、働く場所の少なさや人が集える場所の不足、まちのＰＲ力の弱さなどが課題として挙げられました。

【主なご意見】

【魅力】	【課題】
・星がきれい ・川遊びのできる猪名川の河川 ・美しい桜並木 ・歴史ある多田銀銅山	・観光などのＰＲ力が弱い ・働く場がコミュニティビジネスも含めて少ない ・若者が集える空間が少ない ・人が集まる場所をつくる ・人を呼び込む目玉をつくりたい

●第３回　猪名川町の未来～あした～を描こう

農業体験や地域資源を活かしたイベントの開催、廃校や酒蔵など既存の店舗や施設の活用と活性化の促進、ボランティアやコミュニティなど人がつながる仕組みづくりで「農でにぎわう・イベントで集う・活かす・つながるまち」という未来を描きました。

【主なご意見】

農でにぎわう・イベントで集う・活かす・つながるまち

【活かす】
- 廃校利用、休耕地利用などによって人が集まりやすい場所を整備
- 里山の利用目的を明確にする
- お店を増やす
- 阪神間で一番高い山をアピール
- 自然の中で暖炉のあるような山小屋
- 酒造跡地の酒蔵を再利用

【イベント de 集う】
- 人が集まるイベントを毎年定期的に開催する
- 人が集まる手作り市
- ウォーキングコース、ハイキングコースを作る
- 元気ＵＰ商店街の復活
- ご当地アイドル

【つながり】
- ボランティアによる高齢者世帯の見守り
- 大きなコミュニティより小さなコミュニティーを多く支援
- 年寄世帯の見守り

【農でにぎわい】
- 農家に住み込む農業体験
- 収穫体験農園の実施
- 道の駅でフレッシュな野菜の販売
- 畑付き住宅の開発
- 就農して農家として自立

●第４回　猪名川町の未来～あした～を実現する方策を考えよう

「日本で一番かがやく田舎」を目指し、猪名川町の自然と魅力を楽しめるアドベンチャータウンとして、里山の活用や自然を活かしたスポーツイベントの開催、まちじゅうサクラＰＲとして、桜の植樹活動、農えん創造として、体験型観光農園や就農支援などの取組が提案されました。

【主なご意見】

日本で一番かがやく田舎

アドベンチャータウンいながわ

【自然にふれあえるまち】
- 子どもたちが自然にふれあえる町
- 阿古谷小を活用する
- あふれている里山を活かす
- カブト虫の里山

【自然を活かしたスポーツイベント】
- トレイルランニングなどのスポーツイベントを開催する
- まち協、スポーツクラブなどが連携する

まちじゅうサクラＰＲ

- 桜メインの講習会
- 桜の植樹
- 桜お花見、サイクリングなど
- 写真撮影会

農えん（園・円・縁）創造

- 農園で縁を結び、円（お金）を生む！
- 収穫体験農園
- 手作り市
- 就農支援
- 猪名川町の土に一番適した作物の開発
- 介護施設と連携

住民主体のＰＲ組織

交流会模造紙まとめ

【１班　にぎわいグループ】●第２回

H25.11.10　1班「にぎわいグループ」①好きなところ・魅力

近くからの交通の便

- 都市近郊
- 交通アクセスが良い
- 意外と都心に近い
- 大阪から近い
- 高速道路ができるところ
- 新しい道路ができる
- 近くにゴルフ場が多い
- ほこれる歴史の文化がある町
- 猪名川主産業の発展を考える
- 北部の小中学校の少人数教育

自然と文化

- 自然の豊かさ（緑・川）
- 全国的に猪名川は万葉集で有名
- 農産物がおいしい
- 自然の充実
- ハイキングに好適
- 文化財が豊富
- 町がキレイ（清潔・さわやか）
- 自然がいっぱい！
- 自然（ホタル）が残っている
- 歴史的な文化遺産（銀山）
- 町と田舎の両方の性質を持つ
- 里山がある
- 公園が多い
- 自然の中に歴史が残っている
- 歴史街道を通じて文化を考える
- 空気が良い
- 公園や道路がキレイに管理されている
- 静かな文化財のある住みやすい町

町の財政力

- 比較的財政が安定
- 市町村合併せず「いながわ」の名を残しているところ

おまけ 利用価値のあるもの

- イオンほか力強い民間がある
- 小規模な店もがんばっている

人そのもの

- 人口が少なく調整が容易
- 人々が排他的でない
- 人が優しいゆったりしている
- 町民の意識が高い
- 豊かな人材

にぎわい G（グループ）

H25.11.10　1班「にぎわいグループ」②変えたいところ・課題

ソフト その他

- 教育文化発 大学キャンパス考える
- 町の良さの発掘を
- 前例踏襲
- 総合計画が総花的
- お金のおとし方がヘタ

自然の活用策

- 里山の荒廃
- 山や川で遊べない
- 楽しむところの不足
- 北部の人口減

ハード施設

- 道路等の環境整備
- 道路に危険な所がある
- 道路にごみが落ちている
- 道の駅の活用策を
- 交通を至便に
- 173 号線と 12 号線を結ぶ道を作ってほしい
- 道の駅での体験から
- パークタウンの街路樹が無残な伐採状況
- 通学路の安全確保
- 遺跡公園を作ってほしい
- 街並みが乱れてきた　石積（自然風）⇒コンクリート（無機質）
- 小学校統合⇒コミュニティ崩壊
- 万葉歌の歌碑を建ててほしい
- 観光地などに整備が不足
- 高い水道料金
- 宿泊施設を作ってほしい
- せっかくの施設が利用できていない
- 企業誘致
- 仕事場をつくること
- 食事をするところが少ない
- 行政改革が近隣行政より大幅に遅れている
- 総合病院がない
- 食べる所が少ないのでもっと作ってほしい
- 通過ポイントになっている

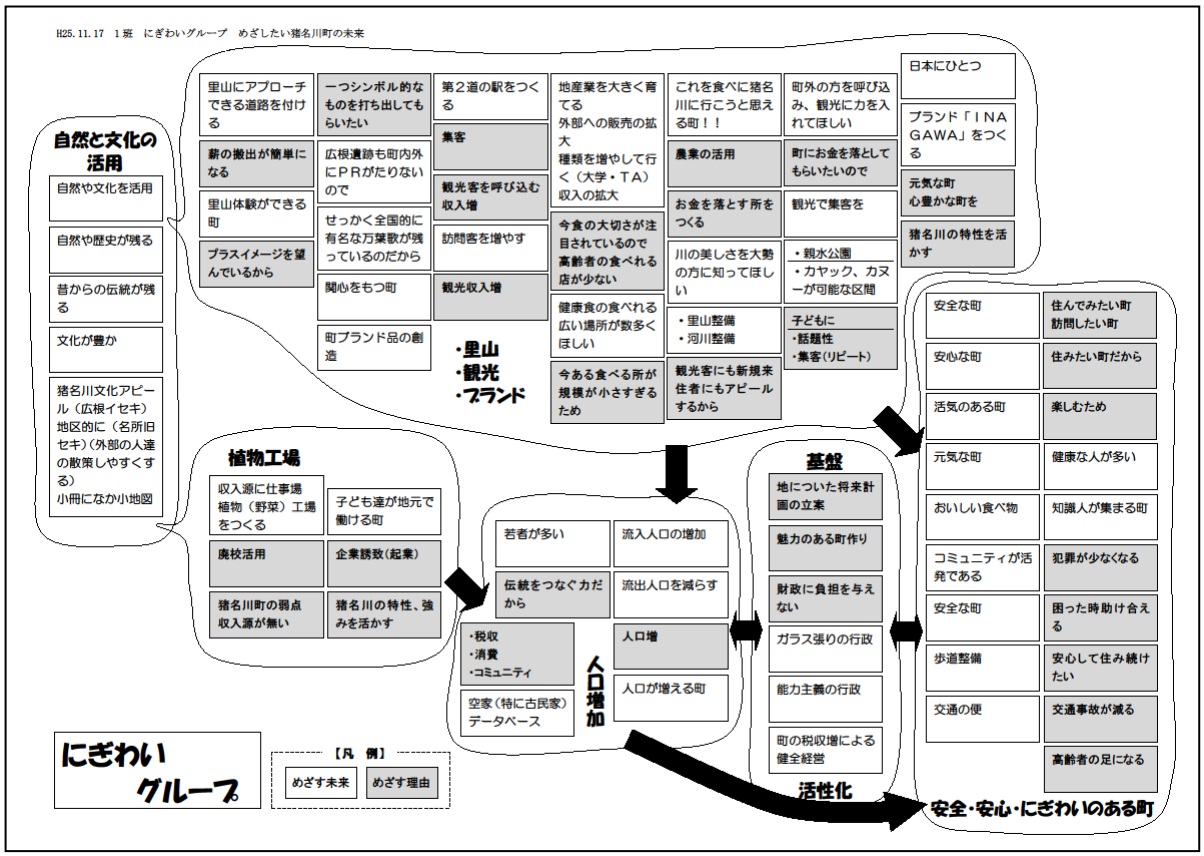
情報発信

- 猪名川ブランドが弱い
- PR不足
- 情報発信力が弱い
- 町の良さのPRを
- 観光パンフが不足
- 古代歴史のアピール 街道の利用
- グループが情報発信できるインフォがない

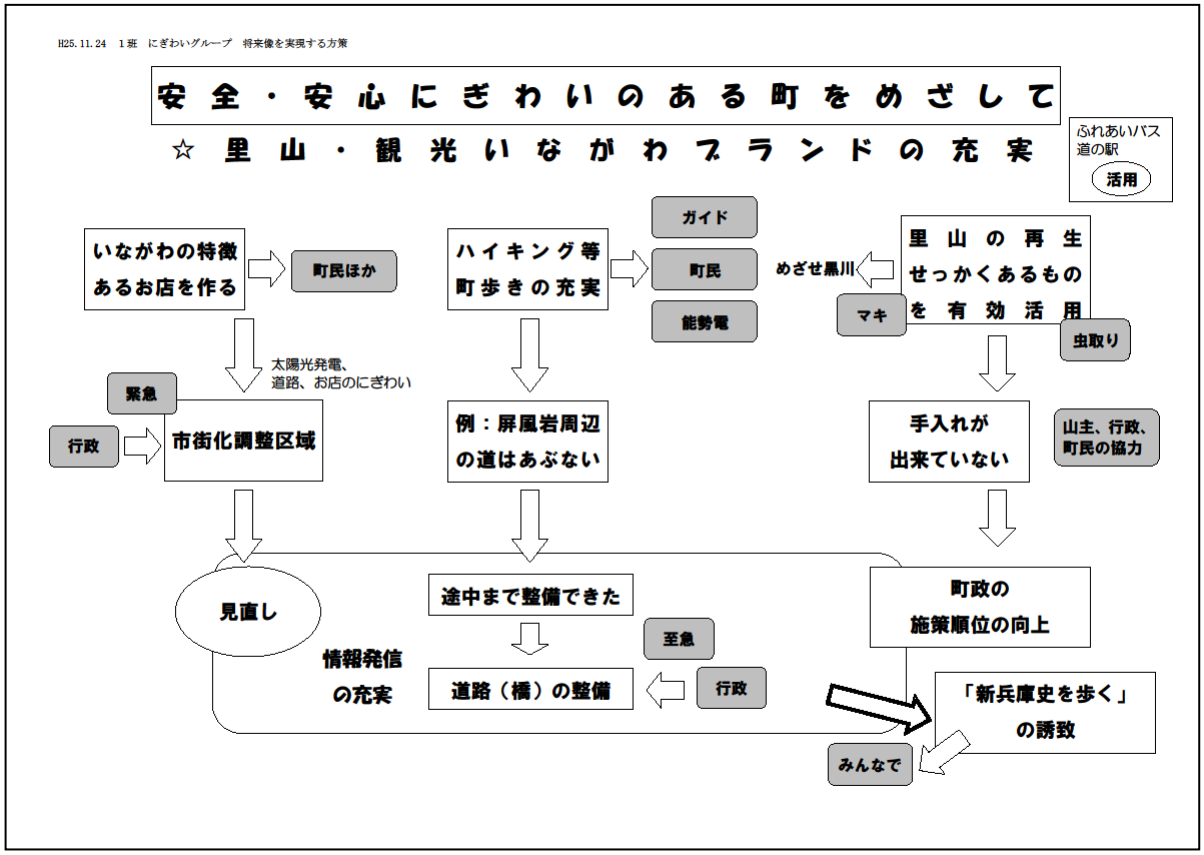
高齢化と町への関心

- 町の高齢化
- 農業の後継者不足
- 高齢化が急になってきた
- 町内の方々との交流を
- 中堅層が自治会・PTA に消極的
- 高齢化（特に北部）
- 近隣との交流、連携を
- 元気さを維持拡大
- 年代間の交流を！
- ニュータウンの投票率が低すぎる

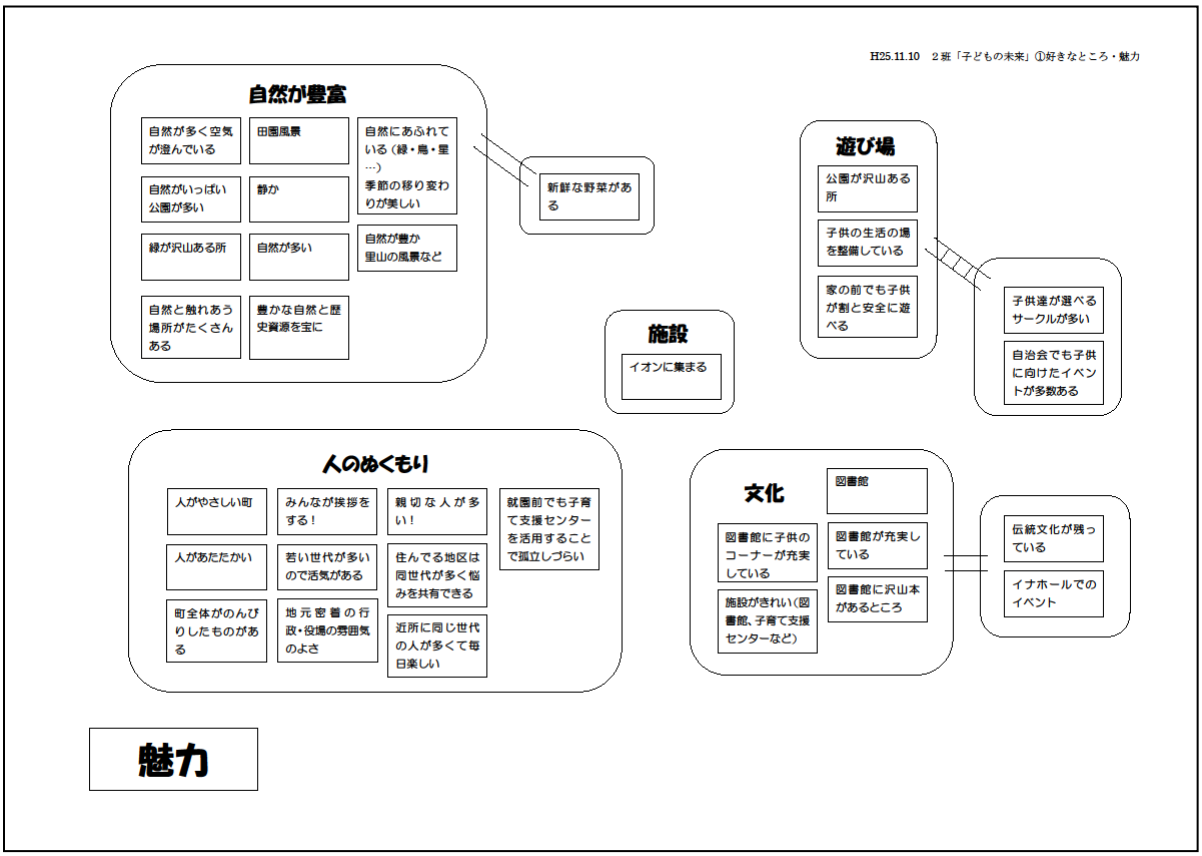
●第３回

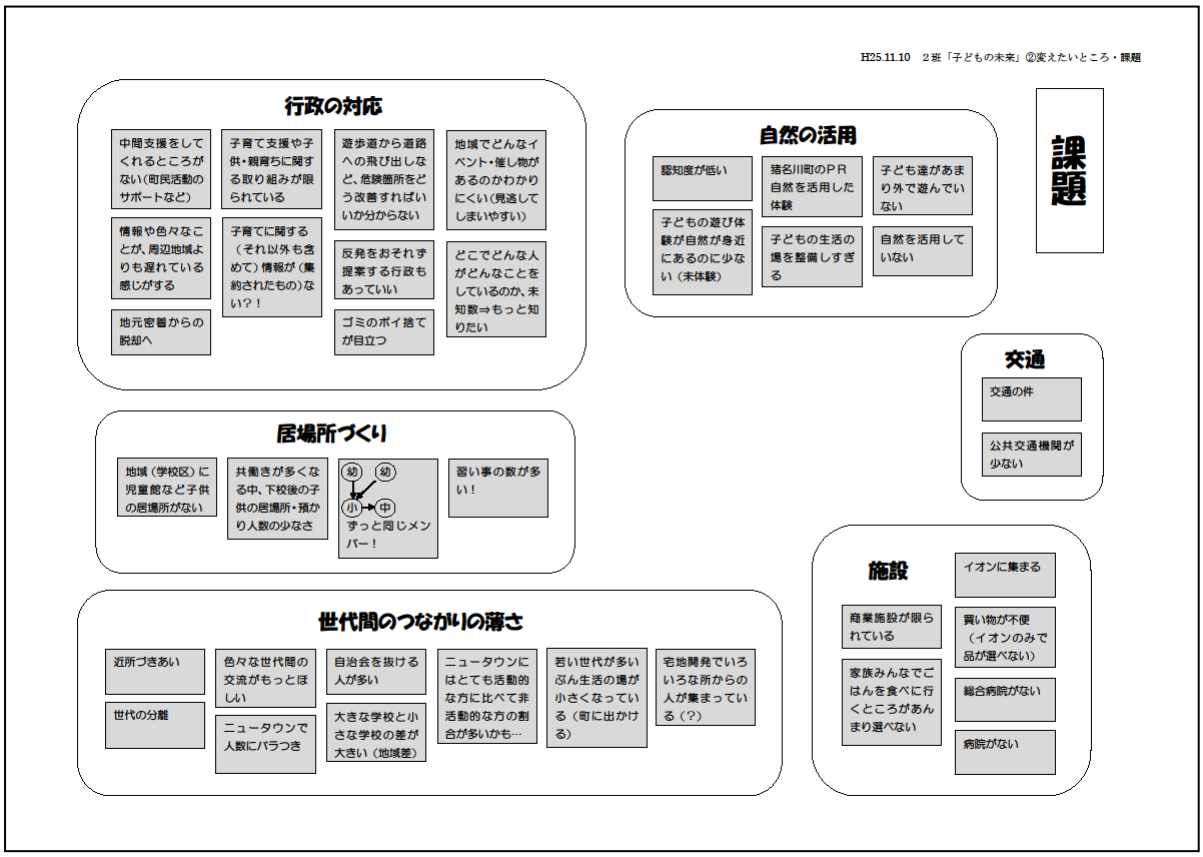

H25.11.17　1班　にぎわいグループ　めざしたい猪名川町の未来
自然と文化の活用
自然や文化を活用
自然や歴史が残る
昔からの伝統が残る
文化が豊か
猪名川文化アピール（広根イセキ）地区的に（名所旧セキ）（外部の人達の散策しやすくする）小冊になか小地図
里山にアプローチできる道路を付ける
薪の搬出が簡単になる
里山体験ができる町
プラスイメージを望んでいるから
一つシンボル的なものを打ち出してもらいたい
広根遺跡も町内外にＰＲがたりないので
せっかく全国的に有名な万葉歌が残っているのだから
関心をもつ町
町ブランド品の創造
第２道の駅をつくる
集客
観光客を呼び込む収入増
訪問客を増やす
観光収入増
・里山
・観光
・ブランド
地産業を大きく育てる
外部への販売の拡大
種類を増やして行く（大学・ＴＡ）
収入の拡大
今食の大切さが注目されているので高齢者の食べれる店が少ない
健康食の食べれる広い場所が数多くほしい
今ある食べる所が規模が小さすぎるため
これを食べに猪名川に行こうと思える町！！
農業の活用
お金を落とす所をつくる
川の美しさを大勢の方に知ってほしい
・里山整備
・河川整備
観光客にも新規来住者にもアピールするから
町外の方を呼び込み、観光に力を入れてほしい
町にお金を落としてもらいたいので
観光で集客を
・親水公園
・カヤック、カヌーが可能な区間
子どもに
・話題性
・集客（リピート）
日本にひとつ
ブランド「ＩＮＡＧＡＷＡ」をつくる
元気な町
心豊かな町を
猪名川の特性を活かす
植物工場
収入源に仕事場
植物（野菜）工場をつくる
子ども達が地元で働ける町
廃校活用
企業誘致（起業）
猪名川町の弱点
収入源が無い
猪名川の特性、強みを活かす
若者が多い
流入人口の増加
伝統をつなぐ力だから
流出人口を減らす
・税収
・消費
・コミュニティ
空家（特に古民家）データベース
人口増
人口が増える町
人口増加
基盤
地についた将来計画の立案
魅力のある町作り
財政に負担を与えない
ガラス張りの行政
能力主義の行政
町の税収増による健全経営
活性化
安全な町
安心な町
活気のある町
元気な町
おいしい食べ物
コミュニティが活発である
安全な町
歩道整備
交通の便
住んでみたい町
訪問したい町
住みたい町だから
楽しむため
健康な人が多い
知識人が集まる町
犯罪が少なくなる
困った時助け合える
安心して住み続けたい
交通事故が減る
高齢者の足になる
安全・安心・にぎわいのある町
にぎわいグループ
【凡　例】
めざす未来
めざす理由

●第４回

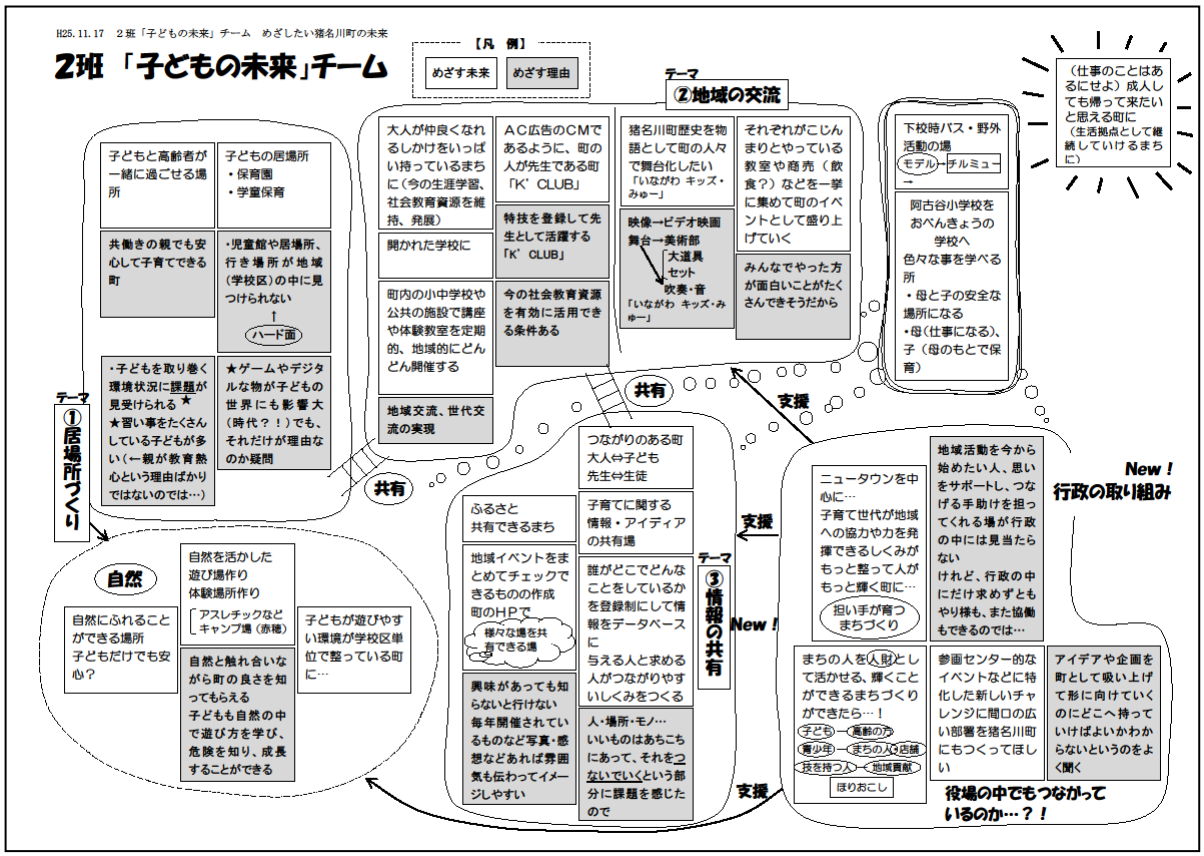

H25.11.24　1班　にぎわいグループ　将来像を実現する方策
安全・安心にぎわいのある町をめざして
☆里山・観光いながわブランドの充実
ふれあいバス道の駅
活用
いながわの特徴あるお店を作る
町民ほか
ハイキング等町歩きの充実
ガイド
町民
能勢電
めざせ黒川
マキ
里山の再生せっかくあるものを有効活用
虫取り
太陽光発電、道路、お店のにぎわい
緊急
行政
市街化調整区域
例：屏風岩周辺の道はあぶない
手入れが出来ていない
山主、行政、町民の協力
見直し
情報発信の充実
途中まで整備できた
至急
道路（橋）の整備
行政
町政の施策順位の向上
「新兵庫史を歩く」の誘致
みんなで

【２班　子どもの未来チーム】●第２回

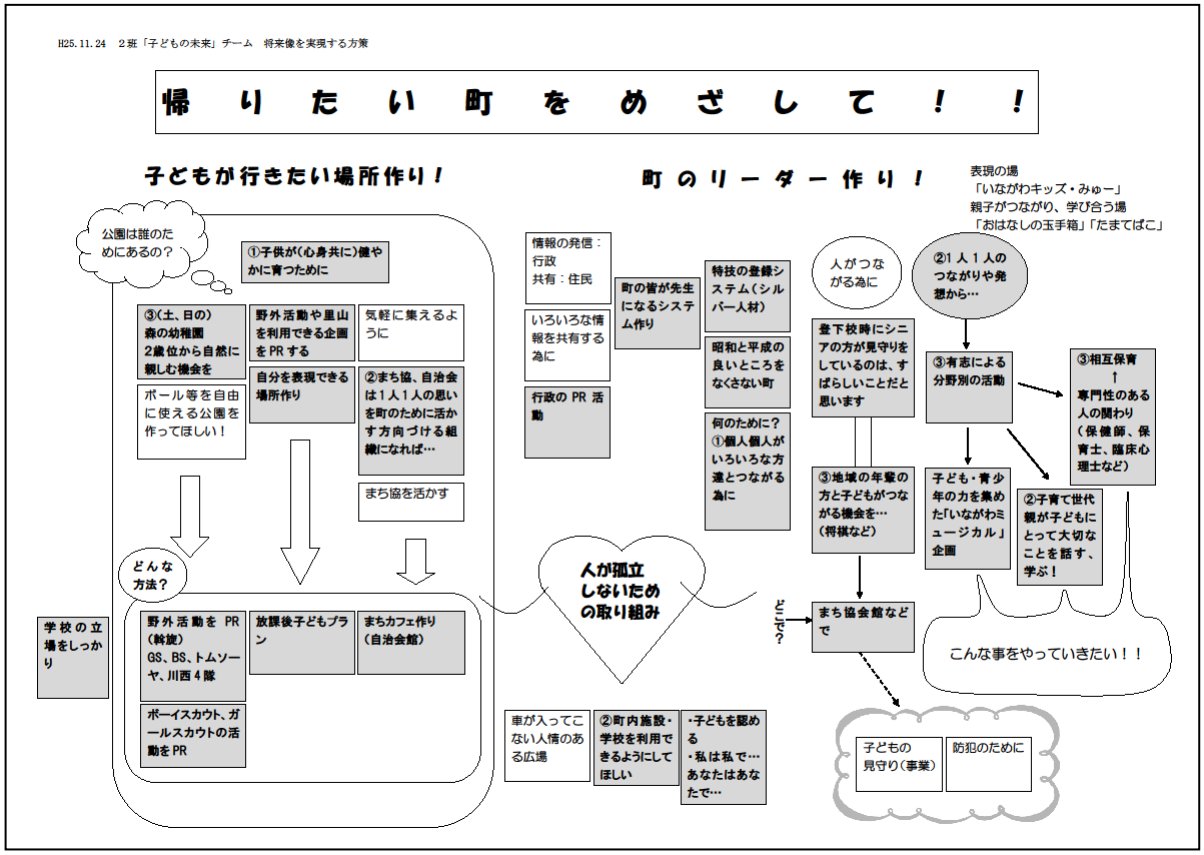




●第３回


H25.11.17　２班「子どもの未来」チーム　めざしたい猪名川町の未来
2班 「子どもの未来」チーム
【凡 例】
めざす未来
めざす理由
テーマ ①居場所づくり
子どもと高齢者が一緒に過ごせる場所
子どもの居場所
・保育園
・学童保育
共働きの親でも安心して子育てできる町
・児童館や居場所、行き場所が地域（学校区）の中に見つけられない
ハード面
・子どもを取り巻く環境状況に課題が見受けられる★
★習い事をたくさんしている子どもが多い（←親が教育熱心という理由ばかりではないのでは…）
★ゲームやデジタルな物が子どもの世界にも影響大（時代？！）でも、それだけが理由なのか疑問
共有
自然
自然を活かした遊び場作り
体験場所作り
アスレチックなど
キャンプ場（赤穂）
自然に ふれることができる場所
子どもだけでも安心？
子どもが遊びやすい環境が学校区単位で整っている町に…
自然と触れ合いながら町の良さを知ってもらえる
子どもも自然の中で遊び方を学び、危険を知り、成長することができる
テーマ ②地域の交流
大人が仲良くなれるしかけをいっぱい持っているまちに（今の生涯学習、社会教育資源を維持、発展）
AC広告のCMであるように、町の人が先生である町「K’CLUB」
特技を登録して先生として活躍する「K’CLUB」
開かれた学校に
町内の小中学校や公共の施設で講座や体験教室を定期的、地域的にどんどん開催する
今の社会教育資源を有効に活用できる条件ある
地域交流、世代交流の実現
猪名川町歴史を物語として町の人々で舞台化したい「いながわ キッズ・みゅー」
それぞれがこじんまりとやっている教室や商売（飲食？）などを一挙に集めて町のイベントとして盛り上げていく
映像→ビデオ映画
舞台→美術部
「大道具
セット
吹奏・音
「いながわ キッズ・みゅー」
みんなでやった方が面白いことがたくさんできそうだから
下校時バス・野外活動の場
モデル→チルミュー
阿古谷小学校をおべんきょうの学校へ
色々な事を学べる所
・母と子の安全な場所になる
・母（仕事になる）、子（母のもとで保育）
（仕事のことはあるにせよ）成人しても帰って来たいと思える町
（生活拠点として継続していけるまちに）
共有
つながりのある町
大人⇔子ども
先生⇔生徒
ふるさと
共有できるまち
子育てに関する情報・アイディアの共有場
地域イベントをまとめてチェックできるものの作成
町のHPで
様々な場を共有できる場
誰がどこでどんなことをしているかを登録制にして情報をデータベースに
与える人と求める人がつながりやすいしくみをつくる
興味があっても知らないと行けない
毎年開催されているものなど写真・感想などあれば雰囲気も伝わってイメージしやすい
人・場所・モノ…
いいものはあちこちにあって、それをつないでいくという部分に課題を感じたので
テーマ ③情報の共有
New！
支援
支援
支援
New！
行政の取り組み
ニュータウンを中心に…
子育て世代が地域への協力や力を発揮できるしくみがもっと整って人がもっと輝く町に…
担い手が育つまちづくり
地域活動を今から始めたい人、思いをサポートし、つなげる手助けを担ってくれる場が行政の中には見当たらない
けれど、行政の中にだけ求めずともやり様も、また協働もできるのでは…
まちの人を人財として活かせる、輝くことができるまちづくりができたら…！
子ども
高齢の方
青少年
まちの人々
店舗
技を持つ人
地域貢献
ほりおこし
参画センター的なイベントなどに特化した新しいチャレンジに間口の広い部署を猪名川町にもつくってほしい
アイデアや企画を町として吸い上げて形に向けていくのにどこへ持っていけばよいかわからないというのをよく聞く
役場の中でもつながっているのか…？！

●第４回


H25.11.24　２班「子どもの未来」チーム　将来像を実現する方策
帰 り た い 町 を め ざ し て ！ ！
子どもが行きたい場所作り！
公園は誰のためにあるの？
①子供が（心身共に）健やかに育つために
③（土、日の）森の幼稚園
2歳位から自然に親しむ機会を
野外活動や里山を利用できる企画をPRする
気軽に集えるように
ボール等を自由に使える公園を作ってほしい！
自分を表現できる場所作り
②まち協、自治会は1人1人の思いを町のために活かす方向づける組織になれば…
まち協を活かす
どんな方法？
学校の立場をしっかり
野外活動をPR（斡旋）
GS、BS、トムソーヤ、川西4隊
放課後子どもプラン
まちカフェ作り（自治会館）
ボーイスカウト、ガールスカウトの活動をPR
人が孤立しないための取り組み
車が入ってこない人情のある広場
②町内施設・学校を利用できるようにしてほしい
・子どもを認める
・私は私で…あなたはあなたで…
町のリーダー作り！
情報の発信：行政
共有：住民
いろいろな情報を共有する為に
行政のPR活動
町の皆が先生になるシステム作り
特技の登録システム（シルバー人材）
昭和と平成の良いところをなくさない町
何のために？
①個人個人がいろいろな方達とつながる為に
人がつながる為に
②1人1人のつながりや発想から…
登下校時にシニアの方が見守りをしているのは、すばらしいことだと思います
③有志による分野別の活動
③相互保育
↑
専門性のある人の関わり（保健師、保育士、臨床心理士など）
③地域の年輩の方と子どもがつながる機会を…（将棋など）
子ども・青少年の力を集めた「いながわミュージカル」企画
②子育て世代親が子どもにとって大切なことを話す、学ぶ！
表現の場
「いながわキッズ・みゅー」
親子がつながり、学び合う場
「おはなしの玉手箱」「たまてばこ」
こんな事をやっていきたい！！
まち協会館などで
子どもの見守り（事業）
防犯のために

【３班　だれもが生き活きチーム】●第２回

H25.11.10　３班「だれもが生き活きチーム」好きなところ・魅力　変えたいところ・課題

すきなところ

自然環境
- 緑が多い
- 空気がよい
- 自然の中でのんびり
- 自然が豊か
- 子どもの教育に適している
- 自然がいっぱいある
- 緑が多く、田園が広がっている
- 子どもが生き生き遊べる

ゆとり環境
- 都市部と比較して住宅事情にゆとりがある
- 住宅地として整っている
- 人口密集によるせせこましさがない

交通の便
むかしより…
- 都市部に比較的近い
- 交通の便が整備されてきている

人とのつながり
- 近所との関係が良い
- 人のつながり
- 規模が小さいので顔が見えるものが多い
- 子どもが気軽にあいさつをしてくれる

団体活動
- 新しい住民を受け入れる自治会活動
- 人権を考える団体とつながりがある

3

こうなったら良いと思うところ

医療の充実
- 大きな病院に行くには遠くまで行かないとアカン
- 医療施設が充実していない
- 病院
- 地域医療に不満
- 医療体制の充実

交通が不便
- 交通が不便なので車が運転できないと移動が困難
- 交通の便
- 川西能勢口までの310円が高い
- 交通の便が悪い
- 公共交通の充実土日にはバスがない

交流つながり
- 旧村部とニュータウンの違い
- 大きすぎるので北の方と日生ＮＴとかの交流がない
- 自然が豊かと言いながらそれが生活に反映しているかどうか不明
- 住民同士の交流できるきっかけの場があれば
- 生活困難な人を支えられていない　例）一家焼死事件
- 児童養護施設への反対の声がある

オンリーワン魅力
- オンリーワンという特徴が無い（欲しい）
- 猪名川町の魅力や特色と課題を結びつけた取り組み
- 猪名川町をもっと好きになれるプロジェクトがあれば…
- もっと住民の人が集いたいと思う町おこしのプロジェクトがあれば

高齢化少子
- 高齢者のこと
- 高齢化で自治会運営が難しい
- 少子化によるクラス数の少なさ
- 老人の街化（生き生きと暮らせる街）
- 老後が心配（不安）

産業と仕事
- 障がい児・者の高校卒業後の生活、仕事の場が増えて欲しい
- 農業や食に関して魅力的だと感じているが、アピール不足で残念
- 商工会など企業数が少ない
- 商店街がない（活気に欠ける）

自然環境
- 冬が寒すぎる

役場
- 町役場の改造

教育文化活動
- 住民のあらゆる研修
- 教育、文化的な環境が足りない

2013.11.10

いながわ☆未来創造交流会
第2回 だれもが生き活きチーム

●第３回

H25.11.17　３班　だれもが生き活きチーム　めざしたい猪名川町の未来

めざす猪名川町の未来
だれもがいきいきと暮らせるまち

3班

多様な人が暮らせる
- 高齢・障がいなど弱さを持った人でも働ける場所があったらいいな
- 多種多様な仕事場があったらいいな → こういうことが町の強みになったらいいな
- いろんな人がいるのが社会なので色々な人を受け入れられる社会・町であって欲しい
- 高齢者になったときの孤立などを防ぐ
- どんな人も持っている能力を活かせる社会・町であって欲しい
- 住宅街のいる人々は同年代が多いので担当などを決めて見回りなどをしてほしい
- 多様さを受け入れることのできる町
- 生き活きした団体活動の交流や発表
- いろいろな人がいろいろなテーマをもっている

人のつながりがある
- 各世代の人たちが交流できる
- ニュータウンに住んでいる高齢の方はどうしても孤立しているように感じる
- 生き活きした自治会活動
- 近所・地域のつながりが弱まっていないか
- 近所のつきあい昭和のころに戻らないか

はりあいのある生活
- 生き活きとだれもが受け入れられる
- 農村地域の活性
- 生活困難でも相談・支援がいる例）一家焼死事件
- 休耕田を活用し、野菜作りで交流の場を広げる
- 児童養護施設に反対の声がある
- 阿古谷小学校を有効に活用
- ゴミヤシキ協定イハンの商売なくなれば良い
- いろいろな人が交流出来る施設に
- 学校にてイジメなくなったら良いが

住民と行政とが近い
- 行政と住民が一体になるコミュニケーションUP
- ３万人のほどよい町だからこそ

豊かな自然がある
- 生き活きした自然が守られる
- 高速道路など自然への影響が心配

安全に移動
- 車を持たない（運転できない）人も自由に移動できたらいいな
- “自分の意思で行きたいところに行ける”いうあたり前のことがしたい
- 歩道整備
- ・高齢化等バリアフリー対策
  ・他所からくるハイキングする方の安全確保

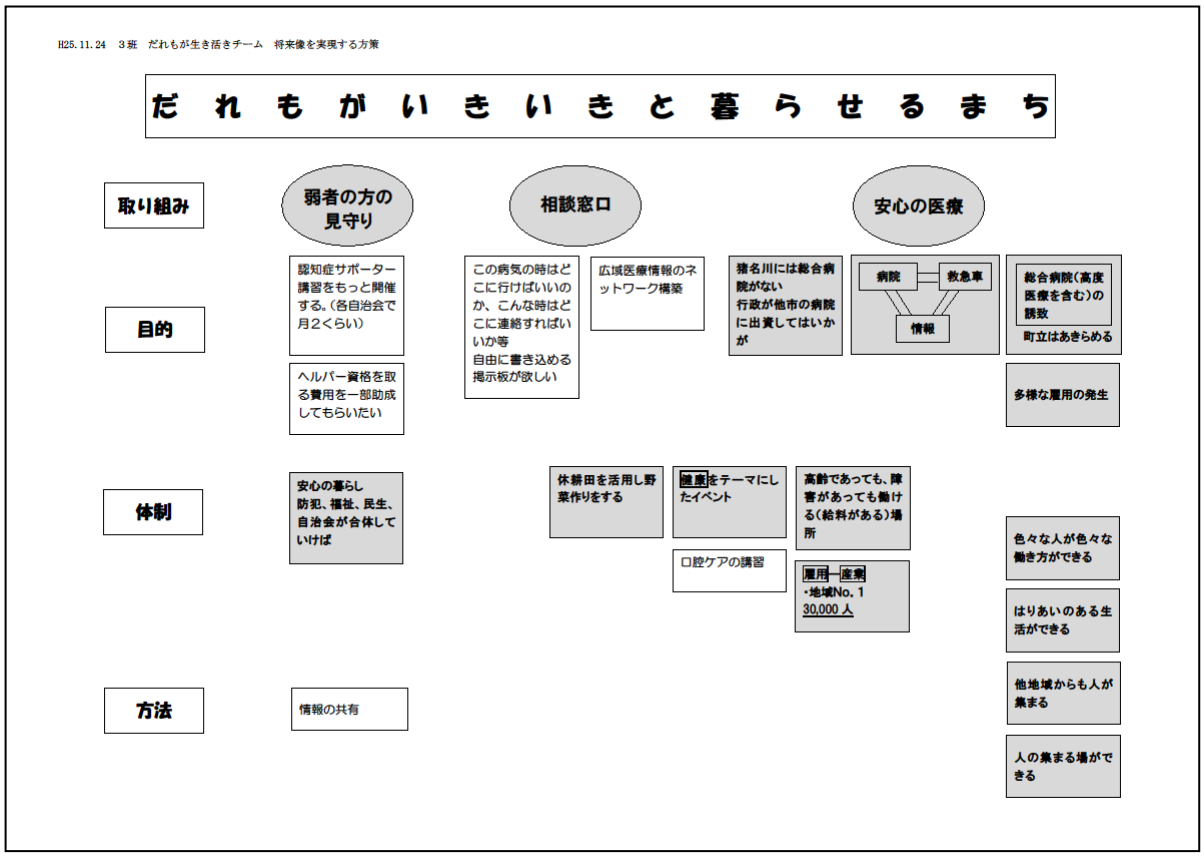
人が集まる
- 農業や食に関するイメージUP
- 豊かな自然を活かせる
- スポーツ大会（プロジェクト）のイメージUP
- GOLFやTENNIS自転車、マラソン練習環境豊富だから
- 文化人が集える町
- オンリーワンの町
- お祭り
- 歴史を活かして
- 「ほたるのタベ」をもっと拡大する
- お祭りのようにして交流する

安心の医療
- 医療の充実
- 中核になる医療施設を誘致しては？
- 総合病院を建てるとなると費用も莫大になる
  診療所や相談窓口となる施設をまとめてもらうとわかりやすいと思う
- 先進的医療施設の誘致
- 広大な敷地と雇用の観点から

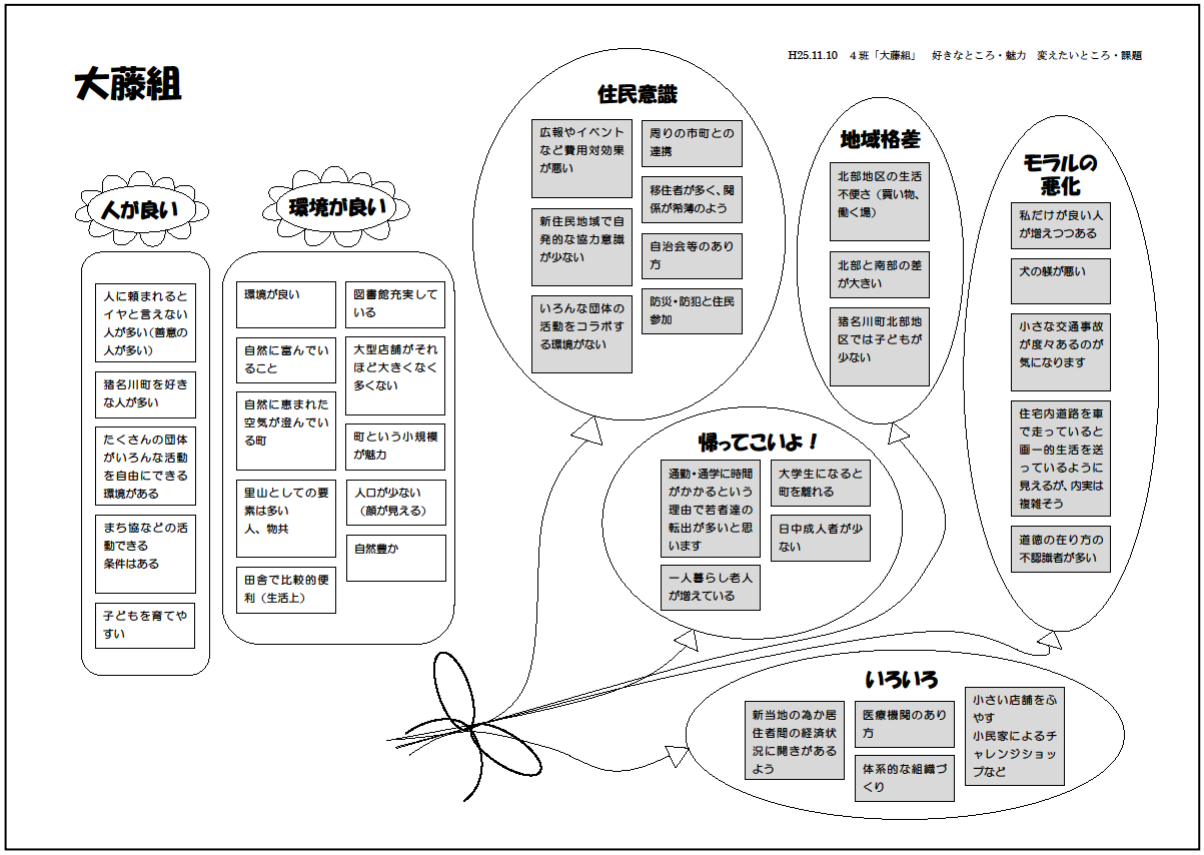
2013.11.17　第3回
いながわ☆未来創造交流会
だれもが生き活きチーム

【凡　例】
- めざす未来
- めざす理由

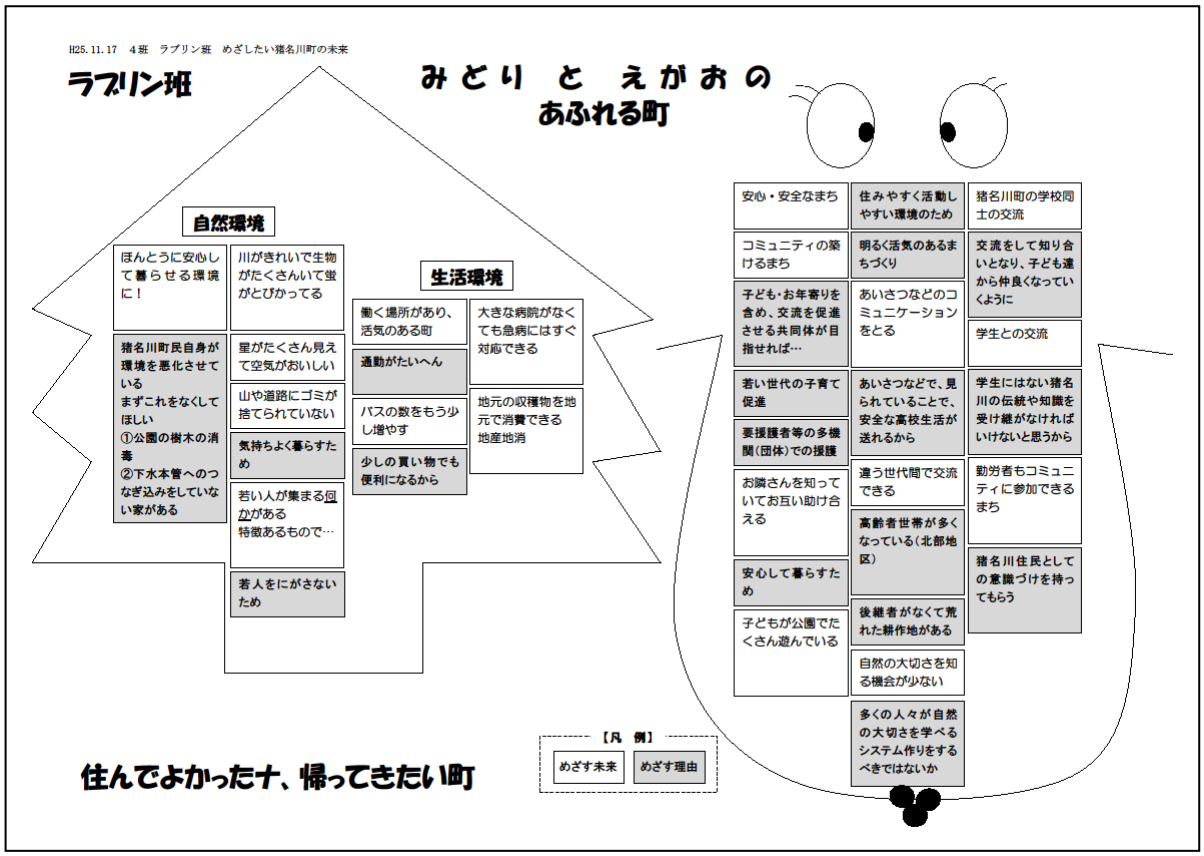
●第４回



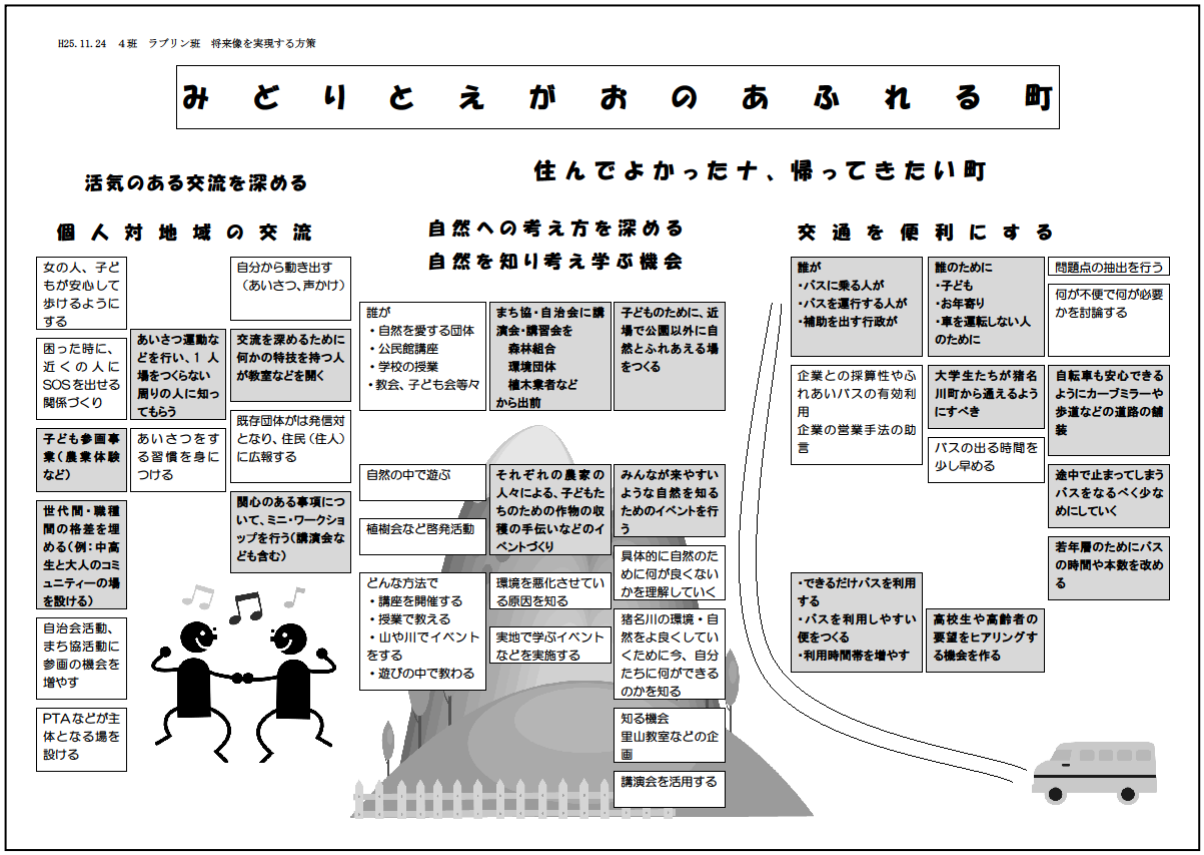
【４班　大藤組】●第２回



●第３回


H25.11.17　４班　ラブリン班　めざしたい猪名川町の未来
ラブリン班
みどりとえがおのあふれる町
自然環境
ほんとうに安心して暮らせる環境に！
川がきれいで生物がたくさんいて蛍がとびかってる
猪名川町民自身が環境を悪化させている
まずこれをなくしてほしい
①公園の樹木の消毒
②下水本管へのつなぎ込みをしていない家がある
星がたくさん見えて空気がおいしい
山や道路にゴミが捨てられていない
気持ちよく暮らすため
若い人が集まる何かがある
特徴あるもので…
若人をにがさないため
生活環境
働く場所があり、活気のある町
通勤がたいへん
バスの数をもう少し増やす
少しの買い物でも便利になるから
大きな病院がなくても急病にはすぐ対応できる
地元の収穫物を地元で消費できる
地産地消
安心・安全なまち
コミュニティの築けるまち
子ども・お年寄りを含め、交流を促進させる共同体が目指せれば…
若い世代の子育て促進
要援護者等の多機関（団体）での援護
お隣さんを知っていてお互い助け合える
安心して暮らすため
子どもが公園でたくさん遊んでいる
住みやすく活動しやすい環境のため
明るく活気のあるまちづくり
あいさつなどのコミュニケーションをとる
あいさつなどで、見られていることで、安全な高校生活が送れるから
違う世代間で交流できる
高齢者世帯が多くなっている（北部地区）
後継者がなくて荒れた耕作地がある
自然の大切さを知る機会が少ない
多くの人々が自然の大切さを学べるシステム作りをするべきではないか
猪名川町の学校同士の交流
交流をして知り合いとなり、子ども達から仲良くなっていくように
学生との交流
学生にはない猪名川の伝統や知識を受け継がなければいけないと思うから
勤労者もコミュニティに参加できるまち
猪名川住民としての意識づけを持ってもらう
【凡　例】
めざす未来
めざす理由
住んでよかったナ、帰ってきたい町

●第４回


H25.11.24　４班　ラブリン班　将来像を実現する方策
みどりとえがおのあふれる町
住んでよかったナ、帰ってきたい町
活気のある交流を深める
個人対地域の交流
女の人、子どもが安心して歩けるようにする
困った時に、近くの人にSOSを出せる関係づくり
子ども参画事業（農業体験など）
世代間・職種間の格差を埋める（例：中高生と大人のコミュニティーの場を設ける）
自治会活動、まち協活動に参画の機会を増やす
PTAなどが主体となる場を設ける
あいさつ運動などを行い、１人場をつくらない周りの人に知ってもらう
あいさつをする習慣を身につける
自分から動き出す（あいさつ、声かけ）
交流を深めるために何かの特技を持つ人が教室などを開く
既存団体がは発信対となり、住民（住人）に広報する
関心のある事項について、ミニ・ワークショップを行う（講演会なども含む）
自然への考え方を深める
自然を知り考え学ぶ機会
誰が
・自然を愛する団体
・公民館講座
・学校の授業
・教会、子ども会等々
まち協・自治会に講演会・講習会を
森林組合
環境団体
植木業者など
から出前
子どものために、近場で公園以外に自然とふれあえる場をつくる
自然の中で遊ぶ
植樹会など啓発活動
それぞれの農家の人々による、子どもたちのための作物の収穫の手伝いなどのイベントづくり
みんなが来やすいような自然を知るためのイベントを行う
どんな方法で
・講座を開催する
・授業で教える
・山や川でイベントをする
・遊びの中で教わる
環境を悪化させている原因を知る
実地で学ぶイベントなどを実施する
具体的に自然のために何が良くないかを理解していく
猪名川の環境・自然をよ良くしていくために今、自分たちに何ができるのかを知る
知る機会
里山教室などの企画
講演会を活用する
交通を便利にする
誰が
・バスに乗る人が
・バスを運行する人が
・補助を出す行政が
誰のために
・子ども
・お年寄り
・車を運転しない人のために
問題点の抽出を行う
何が不便で何が必要かを討論する
企業との採算性やふれあいバスの有効利用
企業の営業手法の助言
大学生たちが猪名川町から通えるようにすべき
バスの出る時間を少し早める
自転車も安心できるようにカーブミラーや歩道などの道路の舗装
途中で止まってしまうバスをなるべく少なめにしていく
若年層のためにバスの時間や本数を改める
・できるだけバスを利用する
・バスを利用しやすい便をつくる
・利用時間帯を増やす
高校生や高齢者の要望をヒアリングする機会を作る

【５班　チーム５】●第２回

H25.11.10　５班「チーム５」①好きなところ・魅力

チーム5 ええとこ

活力

しぜん
- 緑が多く、空気のキレイなところ
- 自然が豊かである
- 星がきれい
- 自然の景色
- 朝、鳥の声が聞こえる
- 近くの川で魚がとれる
- 川遊びのできる猪名川の河川
- 水がおいしい
- 自然が多い、豊富
- 大阪に酸素を送っている
- 空・星がキレイ
- 自然がいっぱいやすらぎの町
- 手つかずの里山や自然
- 自然 大野山、畑田、川等

にぎわい

まち
- 川辺㊙が良い
- 人が顔と顔のみえるキョリ
- 何もないけど何でもできそう
- 住み易い町の広さ
- 立派な公共施設が多い
- あったかい人柄（人達）
- 町じゅう公園
- 都会との距離
- 住民の町に対する愛着が大きい
- １つの町に自然と住宅地があり、散策していて楽しい
- 桜並木が良い
- 日生特急が便利
- 都会の生活と田舎の生活のどちらも体験できる
- まち、行政との交流の場が多い
- どこに行っても知っている人がいっぱいいる
- 無料のキャンプ場（大野山、千軒）

れきし
- 自然歩道や歴史街道
- 歴史ある多田銀銅山や寺院木喰
- 歴史

H25.11.10　５班「チーム５」②変えたいところ・課題

チーム5 たらんとこ

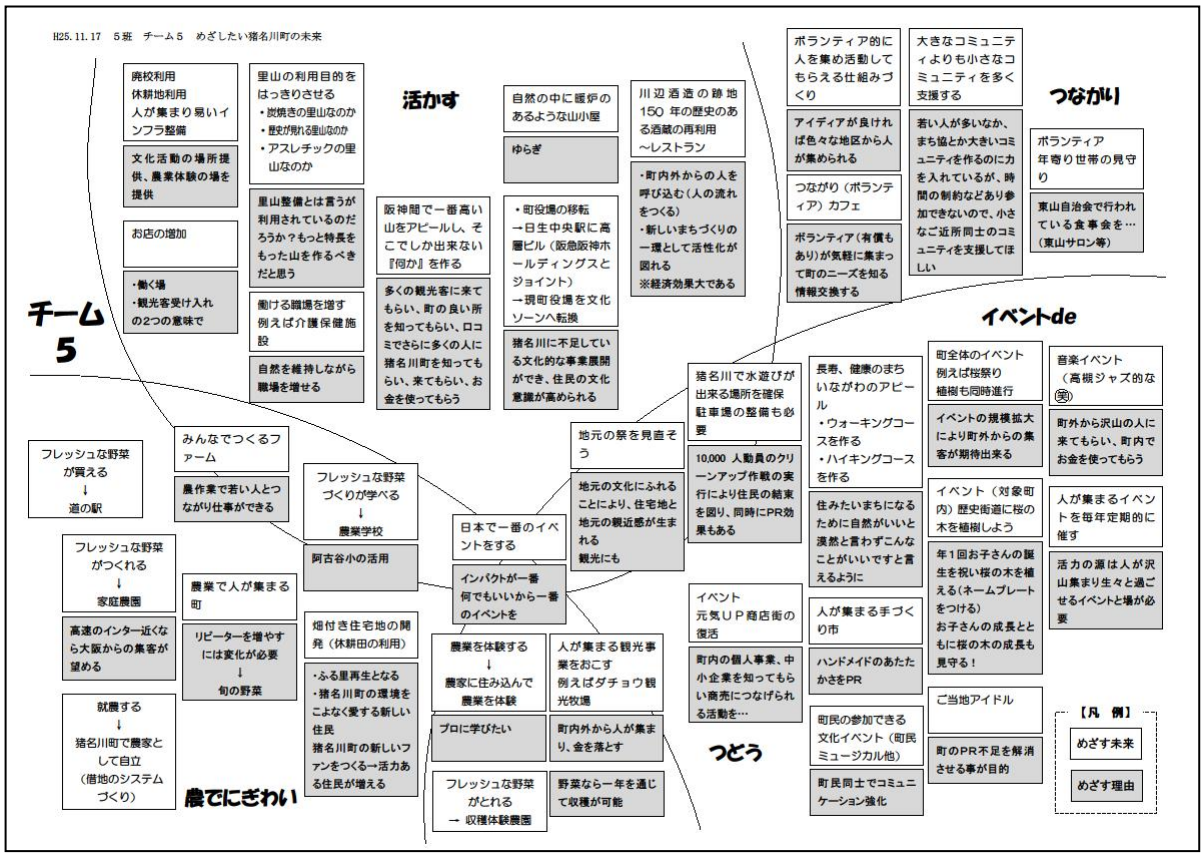
PR
- 各地区のお祭りをもっとアピール
- おもてなしパックがない
- 行政、まちづくりに住民の興味を持ってもらう
- ＰＲの（する）場所が少ない
- すべてにＰＲ不足！
- 町内の良い所（観光地など）のＰＲをどんどんと！
- 来てもらう目的地が少ない（通過点になっている）
- 町役場に関係ある人が前向きに積極的に仕事を進める町
- イオン、道の駅に続く、人が猪名川町に来る為の集まるトコロをつくる
- お客さん（観光客）の受け入れ先（お店など）

こうつう
- 南北に長い
- 北部の交通の便がよくなれば…
- 車の通行が多くなってきた
- ウォーキング用の歩道が途切れないようにするサイクリング道路も充実させること
- 大野山へ行くのに車でしか行けない

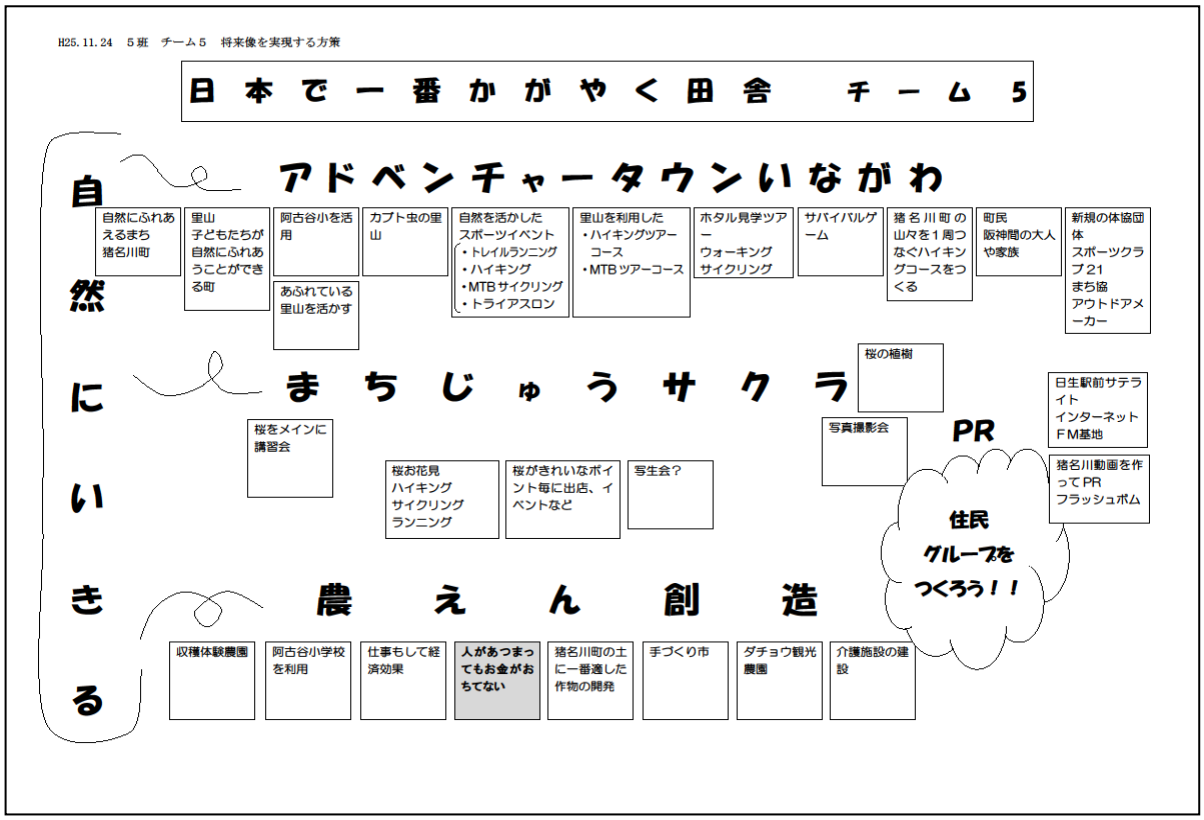
やりたいこと
- 町に活力があり、若い人も就職できる町
- 新名神開通で人を呼びこむ目玉を
- 働く場がコミュニティビジネスも含めて少ない
- イベントができる会場や駐車スペース
- バランスの良い年齢構成になったら良い
- 里山の整備だけでなく活用
- 阿古谷小学校の活用
- 桜並木のエリアを拡大させる
- 民泊古民家
- 若い人が集える空間が少ない
- 農業を活かしたビジネス
- 自然、歴史を活かしたスポットをつくる 人が集まる所
- 自然を活かして観光につなげては！
- 猪名川の大規模クリーンアップ 10,000 人動員

ひと
- 大人があいさつしない
- 南部の住宅地は人のつながりがうすい
- まちづくり協議会がマンネリ化？

●第３回

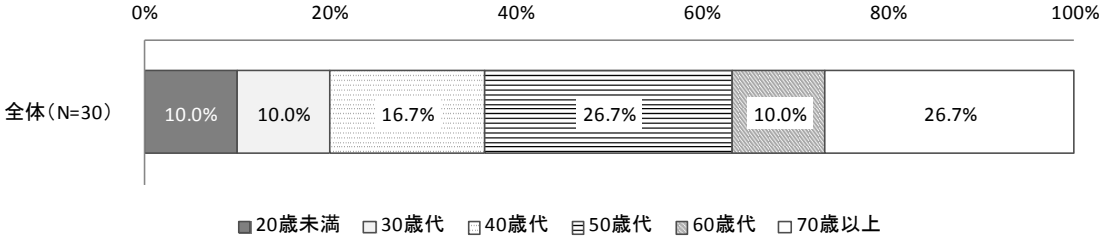

H25.11.17　5班　チーム５　めざしたい猪名川町の未来
チーム５
活かす
廃校利用
休耕地利用
人が集まり易いインフラ整備
文化活動の場所提供、農業体験の場を提供
お店の増加
・働く場
・観光客受け入れ
の2つの意味で
里山の利用目的をはっきりさせる
・炭焼きの里山なのか
・歴史が残る里山なのか
・アスレチックの里山なのか
里山整備とは言うが利用されているのだろうか？もっと特長をもった山を作るべきだと思う
働ける職場を増す
例えば介護保健施設
自然を維持しながら職場を増せる
阪神間で一番高い山をアピールし、そこでしか出来ない『何か』を作る
多くの観光客に来てもらい、町の良い所を知ってもらい、ロコミでさらに多くの人に猪名川町を知ってもらい、来てもらい、お金を使ってもらう
自然の中に暖炉のあるような山小屋
ゆらぎ
・町役場の移転
→日生中央駅に高層ビル（阪急阪神ホールディングスとジョイント）
→現町役場を文化ゾーンへ転換
猪名川に不足している文化的な事業展開ができ、住民の文化意識が高められる
川辺酒造の跡地150年の歴史のある酒蔵の再利用
～レストラン
・町内外からの人を呼び込む（人の流れをつくる）
・新しいまちづくりの一環として活性化が図れる
※経済効果大である
つながり
ボランティア的に人を集め活動してもらえる仕組みづくり
アイディアが良ければ色々な地区から人が集められる
つながり（ボランティア）カフェ
ボランティア（有償もあり）が気軽に集まって町のニーズを知る情報交換する
大きなコミュニティよりも小さなコミュニティを多く支援する
若い人が多いなか、まち協とか大きいコミュニティを作るのに力を入れているが、時間の制約などあり参加できないので、小さなご近所同士のコミュニティを支援してほしい
ボランティア
年寄り世帯の見守り
東山自治会で行われている食事会を…（東山サロン等）
イベントde
猪名川で水遊びが出来る場所を確保
駐車場の整備も必要
10,000人動員のクリーンアップ作戦の実行により住民の結束を図り、同時にPR効果もある
長寿、健康のまちいながわのアピール
・ウォーキングコースを作る
・ハイキングコースを作る
住みたいまちになるために自然がいいと漠然と言わずこんなことがいいですと言えるように
人が集まる手づくり市
ハンドメイドのあたたかさをPR
町民の参加できる文化イベント（町民ミュージカル他）
町民同士でコミュニケーション強化
町全体のイベント
例えば桜祭り
植樹も同時進行
イベントの規模拡大により町外からの集客が期待出来る
イベント（対象町内）歴史街道に桜の木を植樹しよう
年1回お子さんの誕生を祝い桜の木を植える（ネームプレートをつける）
お子さんの成長とともに桜の木の成長も見守る！
ご当地アイドル
町のPR不足を解消させる事が目的
音楽イベント
（高槻ジャズ的な笑）
町外から沢山の人に来てもらい、町内でお金を使ってもらう
人が集まるイベントを毎年定期的に催す
活力の源は人が沢山集まり生々と過ごせるイベントと場が必要
【凡　例】
めざす未来
めざす理由
地元の祭を見直そう
地元の文化にふれることにより、住宅地と地元の親近感が生まれる
観光にも
イベント
元気ＵＰ商店街の復活
町内の個人事業、中小企業を知ってもらい商売につなげられる活動を…
つどう
農でにぎわい
フレッシュな野菜が買える
↓
道の駅
みんなでつくるファーム
農作業で若い人とつながり仕事ができる
フレッシュな野菜づくりが学べる
↓
農業学校
阿古谷小の活用
日本で一番のイベントをする
インパクトが一番
何でもいいから一番のイベントを
フレッシュな野菜がつくれる
↓
家庭農園
高速のインター近くなら大阪からの集客が望める
農業で人が集まる町
リピーターを増やすには変化が必要
↓
旬の野菜
畑付き住宅地の開発（休耕田の利用）
・ふる里再生となる
・猪名川町の環境をこよなく愛する新しい住民
猪名川町の新しいファンをつくる→活力ある住民が増える
農業を体験する
↓
農家に住み込んで農業を体験
プロに学びたい
人が集まる観光事業をおこす
例えばダチョウ観光牧場
町内外から人が集まり、金を落とす
フレッシュな野菜がとれる
→ 収穫体験農園
野菜なら一年を通じて収穫が可能
就農する
↓
猪名川町で農家として自立
（借地のシステムづくり）

●第４回


H25.11.24　5班　チーム５　将来像を実現する方策
日本で一番かがやく田舎　チーム５
自然にいきる
アドベンチャータウンいながわ
自然にふれあえるまち
猪名川町
里山
子どもたちが自然にふれあうことができる町
阿古谷小を活用
あふれている里山を活かす
カブト虫の里山
自然を活かしたスポーツイベント
・トレイルランニング
・ハイキング
・MTBサイクリング
・トライアスロン
里山を利用した
・ハイキングツアーコース
・MTBツアーコース
ホタル見学ツアー
ウォーキング
サイクリング
サバイバルゲーム
猪名川町の山々を1周つなぐハイキングコースをつくる
町民
阪神間の大人や家族
新規の体協団体
スポーツクラブ21
まち協
アウトドアメーカー
まちじゅうサクラ
桜の植樹
桜をメインに講習会
桜お花見
ハイキング
サイクリング
ランニング
桜がきれいなポイント毎に出店、イベントなど
写生会？
写真撮影会
PR
日生駅前サテライト
インターネット
FM基地
猪名川動画を作ってPR
フラッシュポム
住民グループをつくろう！！
農えん創造
収穫体験農園
阿古谷小学校を利用
仕事もして経済効果
人があつまってもお金がおちてない
猪名川町の土に一番適した作物の開発
手づくり市
ダチョウ観光農園
介護施設の建設

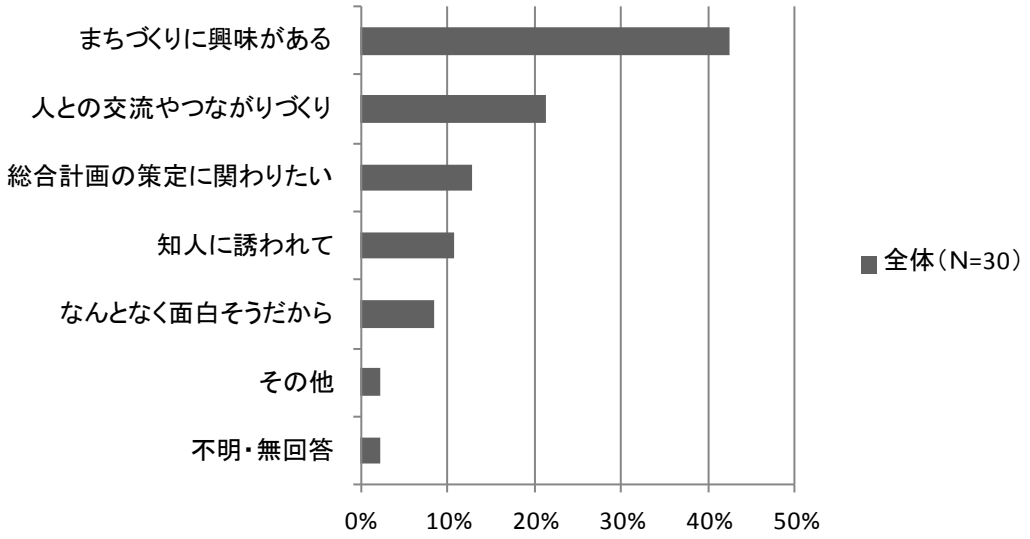
参考資料　交流会終了時アンケート集計結果

（問 1）あなたのご年齢は？



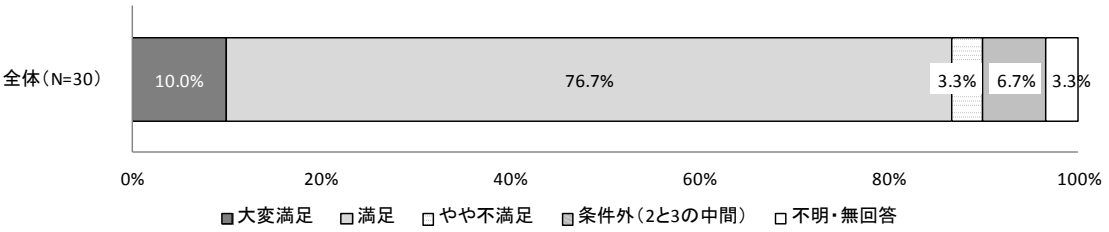
※「20 歳代」は回答なし

（問 2）なぜ交流会に参加しましたか？（複数回答可）



その他回答	類似件数
ボランティア経験を活かせる場を探しに	1

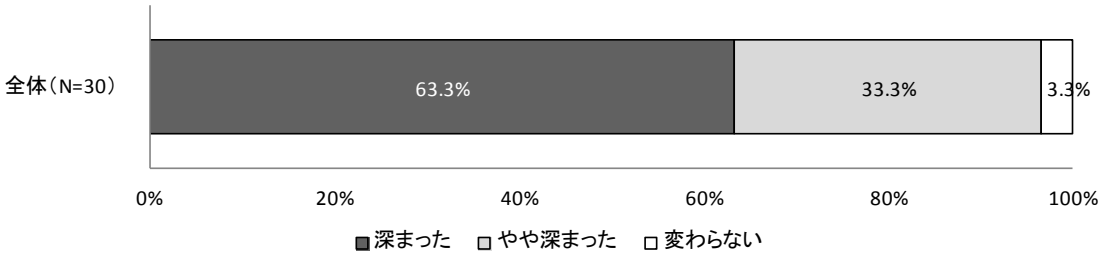
（問 3）交流会の内容は満足のいくものでしたか？



※「大変不満足」は回答なし

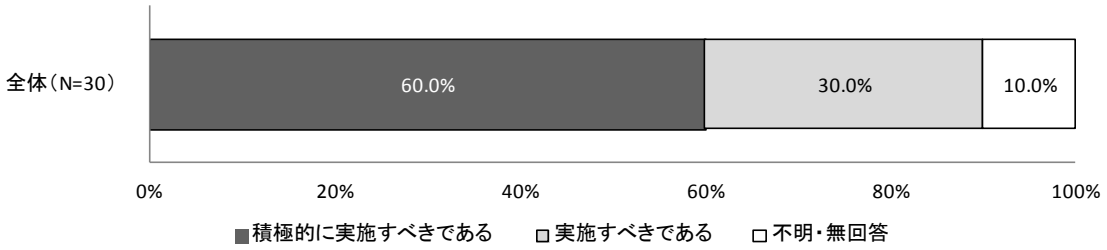
その理由	類似件数
他の人の意見を知ることができた	6
新しい情報を得る（交換する）ことができた	7
色々な人と知り合うことができた	3
参加者の協働ができた	2
最終的なまとめがうまくいかなかった	2
町が住民の声を聞く姿勢が見えた	1
熱意を感じることができた	1
（町からの）情報提供が不十分だったように思う	1
この会の行く末が見えない	1
猪名川町の本当の姿を知ってほしい	1

（問 4）交流会に参加して、町づくりへの興味や関心は深まりましたか？



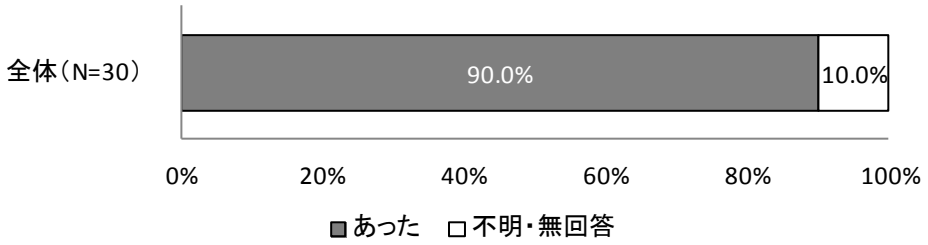
※「まったく深まらなかった」は回答なし

（問 5）今後もまちづくりの計画など住民が参画する今回のような会を実施するべきだと思いますか？



※「どちらでもよい」「実施する必要はない」は回答なし

（問 6）交流に参加して新たに気づいたことや、今後自身が取組みたいことなどがありましたか？



内容	類似件数
何らかの具体的なまちづくり企画	7
町を良くしたいという人がいることが分かった	4
異なる世代の意見を知ることができた	3
まちづくりへの参加	3
考える時間がもっと欲しかった	2
まちづくりに関する啓発の必要性	2
市街化調整区域について知ることができた	2
猪名川町は PR 不足であると分かった	1
新しい人との交流	1
猪名川町で就農したい	1
住民と行政の協働の必要性	1

（問 7）交流会や、まちづくりについてのご意見をぜひお聞かせください。

回答	類似件数
このような交流会をもっと行なうべき	8
交流会で話し合った内容を施策に反映してほしい	4
行政と住民が協力してまちづくりに取り組むべき	3
楽しく参加できた	2
交流会でできたつながりの維持	1
参加者のつながり自体ができていない	1
町による自然破壊を見直してほしい	1
町は総合計画を提示してほしい	1
箱ものづくりはやめてほしい	1
特になし	1
不明無回答	7